
いつかの林檎の木の下で

鄭文ういな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかの林檎の木の下で

【Nコード】

N3540P

【作者名】

鄭文ういな

【あらすじ】

いつかの林檎の木の下で、何かが無かを祈ってる。その「何か」は、ある物書きの虚勢なのかもしれないし、ある青年の恋心なのかもしれないし、ある自然の悪戯なのかもしれない——全9編による「何か」の祈り。

ピリオドのあとにまた文が続くように（前書き）

第1編、「u17's poems」には、モチーフというものが存在しません。おそらく、どこから読んでも大丈夫だと思います。例外があるかもしれませんが。

ピリオドのあとにまた文が続くように

わたしのその右手 あなたの左手

あなたの親指 わたしの薬指

いつもと同じ 通学路

何ら変わりのない 青空

あなたとわたしの手を接いで

「愛してる」なんて

そうすぐには言えないけれど

言わないけど

もうこんな日なんだ

あと3日.

わたしは文芸部だったけど

さて あなたはサボリ部？

あなたはどこへ行くんだっけ

ううん そのあとのことだよ

今日もおんなじ青空だ

もう桜が咲いてきたよ

地球温暖化？

あと2日.

になるみたい

うれしくて でも淋しくて

ああ いつの日か

あなたに出会って

お互いがお互いに気づかなくて

新しい笑顔を産むの

そんな夢を みたんだよ

でもねでもねでも^{たす}でもね

最後はあなたがわたしに気づいて

古くて新しい笑顔を創るんだ

そんな物語をつくったんだ

でも それで終わりなんだ

明日・

「ピリオドの日」って知ってる？

わたしが書いた ショートショート

なかなか好評だったんだよ

わたしの中では

最後の祝祭・

私 泣いちゃった

君は泣かなかったね

わたしは私で あなたは君で

そんなこと言って

いつもとちよつとだけ違う 帰り道

君とゆっくり 歩いたね

桃色の桜が空に舞い上がり

それでも空は青くて大きくて

ああ いつの日か

うん ええと

今度会うその時のために

合言葉を決めよう

「いつも同じ青空と」
「すっかり変わった通学路」
・

ピリオドのあとにまた文が続くように（後書き）

とりあへず一作目。

「ピリオドのあとにまた文が続くように」です。

**F
o
r
y
o
u
,
b
u
t

w
h
y
?**

君のために呟いて

君のために唄ってる

君のためにキラメいて

君のために笑ってる

君と私 笑ってて

私と君 泣いている

闇と共に輝いて

光と共にホコリ被って

愛のために呟いて

愛のために唄ってる

愛のために踏みつけて

愛のために愛殺して

君とトモになりたくて

君のそばにただいたくて

君を壊し

私を潰す

愛のために呟いて

愛のために唄ってる

愛のためにこれ創って

愛のためにこれ無くして

愛のために育って

愛のために決定して

愛のために描いて
愛のために書く

愛のために囁いて
愛のために謳ってる
愛のために壊し潰し
愛のために零を殺す

愛を愛と看做すべきかな
愛を君に換えちゃダメかな？
君を私に替えちゃダメだよ

Did you forget?

I don't love you
everything
n g

How about you?

Sorry. I can't...

But why?

F o r y o u , b u t w h y ? (後書き)

とりあへづ2作目。「F o r y o u , b u t w h y ?」でした。

にゃん

にゃー にゃー にゃー にゃー にゃー

カーわーイー 猫

だそうだ

どこが？

って

可愛いんじゃないの？

うん？

どこが？

ただ単に意味のないこと 言うなや

どこが可愛いのかもいえないのか

本当に好きなら

物凄く愛しているなら

答えをだせよ

どこが可愛いんだ？

「全部」以外で答えろ

つまりは 君は 無意味な発言

発言に意味は要らない？

馬鹿言え

自分の発言に責任持て

それが嫌なら 猫になれ

いや 僕は嫌いだ 猫なんか
どこが？

引っ搔かれたことがあるんだ
あつそ そりやすまない

にゃん

にゃん

にゃん

にゃん

サービス にゃくにゃにゃんだかごきげんにゃにゃめ

カーわーイー♪

どこが？

今の

そう それでいい 付き合ってくれてありがとう 我儘に 僕の

にゃん（後書き）

3 作目。「にゃん」

好い嫌き

茶碗蒸しは嫌い キムチチゲは好き

ロマンチックは好き ロマンチストは嫌い

「愛してる」は嫌い あなたは好き 大好き

大好きはlovely Lovelyは愛してる

「好き」は好き 「嫌い」は嫌い

「好い」は嫌い 「嫌き」は好き

ではないかもね

だけど ううん、

あなたは好き 大好き

大好きはlovely Lovelyは美しい 嫌き

RA・LA LA・RA 嫌い好き 好い嫌き

そうだね ううん、

イチゴは嫌い みかんは好き

太陽はいや ツキが好き

Hate liking

ううん。えっと、

それ、おかしいよ

おかしいこと 好き 嫌い 好い 嫌き

うん、lovely

好い嫌き

(後書き)

5 作目 「好い嫌き」

我こそは数学太子

1 たす 1 は 2 ではない

1 たす 1 は $a + b$ でもない

1 たす 1 は 1 である

1 がひとつ 2 がひとつ

3 がひとつ 0 がひとつ

いずれにしたって ひとつにかわりない

1 がふたつ あったとしよう

2 がひとつで たりるだろうか

いや つりあわない

円周率は 3

と 0.1415926

と その他諸々

産医師異国踏む

人並みに奢れや

何が語呂合わせだ

数字なんて その他諸々

算数なんて 小学生用

数学なんて 俺のモノ

さあ 極めろ？

そうかい そうかい

さあ ひとつだけしろ その他諸々捨てて良し

我こそは数学太子（後書き）

6目。「6」と「目」の間に「作」が入ります。当然だけど
「我こそは数学太子」

※u17は文系です。

キミのいる君

ああ ぼくはいつか

キミの存在を証明してやる

ああ だから だからこそ

いまはできない

これから辛い^{つら}ことがもしあつたなら

おもいきり 笑うといい

そうしたら ぼくがすぐに駆けつけて

キミを泣かせてあげる

これから何か起こるなら

それとも何も起こらないなら

おもいきり 叫ぶといい

恥ずかしくて 他人のフリーだけど

「キミは存在している」

ぼくの台詞だ キミには言わせない

「帰れない」

「帰さない」

「君は存在している」

キミが答えるべき台詞

僕がそれを聞くことはないだろうけど

さて

うん ええと

そうだよ
「キミはいる」

キミのいる君（後書き）

7. 「キミのいる君」

パレード

今宵、謝肉祭と呼ばれる恐怖の祭りが開かれる……

Who are youから始まり、死まで続くといわれる祭り

……

肉を感謝する……

喰い物となった魂たちに、礼の舞を披露する……

千切^{ちぎ}られ、裂かれ、割かれ、そして焼かれた肉体どもよ……

悔いることなく、どこぞへ飛んで行けと……

彷徨う魂たちは、舞を眺める……

そして、路が出来る……

恐怖の路が……

一步、また一步と、魂どもは歩を進める……

しかし、路どもは肉になど興味はない……

舞を舞う、人間たちに目を向ける……

今宵は謝肉祭……

肉に謝る、己の過ちを……

魂に問う、己の未来を……

人は、魂をもつ。

パレード（後書き）

ごめんなさい！ 4作目が抜けてました！
てことでこちら、「パレード」が4作目。

「……」が一番重要だったりします、この詩。

夢の旅路

「ありがとう」

君は言う

「ありがとう」

僕も言う

「ごめんね」

君は泣く

「ありがとう」

僕も泣く

Your dream won't come true.

My dream will come true.

Because I'll steal yours.

「ありがとう」

君は笑う

「ありがとう」

僕は泣く

「ごめんね」

君は笑う

「どういたしまして」

僕は――

Your dream will change.

My dream will go out of use.

B
e
c
a
u
s
e

i
t

w
i
l
l

b
e

s
t
o
l
e
n
.

夢の旅路（後書き）

8 作目 「夢の旅路」

今回は直にここへ考えながら書き込み。いわゆる即興作です。

しょうゆ

たあくさんの 星がいる
暗の中空光る 星がいる
ながれていく 星もいる
消えてしまう 星もいる

どれもこれも 星だけど
どれもこれも 星だけど
みんな星達を 見ている
みんな星達に 見られる

しょうゆ発見 感謝感謝
これで日の丸 拝めるよ
雪がつめたい 寒い寒い
凍えて冷えて 凍りそう

ビニール袋は 元にして
しょうゆ発見 感謝感謝
今日もネオン 煌々して
たくさんの星 薄くする

そこにいない いるはず
そこにいない いてくれ
そこにいない いるはず
そこにいない 人のせい

ひとが生きる そうして

きらめく星々 見えてる
きらめく星々 見られる
ひとのおかげ 星がいる

しょうゆ終了 残念残念
しょうゆ終了 感謝感謝
しょうゆ生産 努力努力
しょうゆ消費 売買売買

星がいてくれ ひと会う
ひとのおかげ 星がいる
しょうゆ発見 感謝感謝
ビニール袋は 元に戻す

しょうゆ（後書き）

9 作目 「しょうゆ」

星がいるから人はいて——人がいるから星はいる
僕の技術不足で、冒頭部分を「たあくさん」から「たあくさん」に
変更

しょうゆ

し

**a
s**

S O S

S O S

君といると変になっちゃいそう

君がいると舞い上がってしまいそう

S O S

S O S

目を閉じて

自分に逃げよう

S O S

S O S

君がなにか話す

スーウと耳を通り過ぎ

S O S

S O S

時が止まる 停まる 泊まる？

I d o n ' t k n o w h o w t o t a l k .

I d o n ' t k n o w h o w t o s a y .

I d o n ' t k n o w h o w t o s p e a k .

· ·
W i t h y o u .

ああ S O S

S O S !

もう もう死にそう
大好き そんなの言えるわけじゃないじゃない

as (後書き)

10 作目? 「as」

明日のお天気

私は雨

子供たちに騒ぎ立てられ
汚れを流す

私は雨

私は雪

子供たちに騒ぎ立てられ
汚れを隠す

私は雪

私は雷

子供たちに騒ぎ立てられ
汚れを照らす

私は雷

私は雲

子供たちは興味を持たず
汚れを増やす

私は雲

私は雹^{ひょう}

子供たちに逃亡を強いら
汚れを砕く

私は雹

私は嵐

子供たちを家に追いやり 汚れを舞わせる
私は嵐

私は竜巻
子供たちに興味を引かせ 汚れを飛ばす
私は竜巻

私は^{みぞれ}霽
子供たちは存在を知らず 汚れは知らん
私は霽

私は日
子供たちを見守り続ける 汚れを守る
私は私

明日のお天気（後書き）

11作目になります、「明日のお天気」子供たちって誰でしょうね。

「汚れ」は「よごれ」とも「けがれ」とも読めます。はい。

「私は嵐」と「私は竜巻」の間が広がっていることにも注目願いたいです。

そういえば何作作るかという件。

できれば100作りたいなあ、て。

挫折する気満々ですが。

では。

1と1を足したとき、なぜ2になるのか（前書き）

「我こそは数学太子」の続編です。

1と1を足したとき、なぜ2になるのか

いや。

いやいや。

いやいやいや。

それはおかしいだろう。

なんで。

なんで1+1が1になってるんだよ。

しらねえよ。

そんなくらい自分で考えろよな。

ああ。

考えてるともさ。

だが、これだけは言ってやろう。

1+1は2だ。

はあ？

お前、頭大丈夫か？

なんでそんな気違いなこと言えるんだよ。

それはこっちの台詞だ。

お前、今からでもいいから病院行け。

精神科ってどこにな。

なんだよそれ。精神科って。

宗教の名前か？

ふん。

ふん。

お前とは、つくづく気が合わないようだ。

そのようだ。

どうだ。

いっそのこと殺し合いでもしてみるか。

おお。

お前にしては名案だ。

いいだろう。表え出ろ。

何古臭いこと言ってんだ。

殺し合いならどこでもできんじゃないか。

ここで、だ。

ここでえ？

外は晴天だぞ？

だからなんだ。

表え出ろ。

バチン。

…痛っえなあ。

こんやろう。

バチン。

結論。勝者の意見により、

1+1は2になった。

1と1を足したとき、なぜ2になるのか（後書き）

12作目。「1と1を足したとき、なぜ2になるのか」
これは書いてて楽しかったです。

一般的な収束なる悲しみの淵に光あれ。

世界がひとつだったなら

この世はどれほど単純だろう

世界がふたつだけならば

この世はどれほど楽だろう

仮定の過程を見過ごして

それが罪になるものか

それに罰がつくものか

ただ、世界が恐ろしい。

世界がみつったったなら

世界がよつったったなら

世界がいつつだったなら……

世界がたくさんある今は

世界の価値を下げるには

世界の数を増やせばいい

世界の価値を上げるには

世界の数を減らせばいい

世界の数を増やすには

思想をひとつ創ればいい

世界の数を減らすには

思想をいくつか殺せばいい

思想を殺す手段なら

星より多く見つかる

世界と等しく見つかると
そう、君は言った。

一般的な収束なる悲しみの淵に光あれ。（後書き）

13 作目。「一般的な収束なる悲しみの淵に光あれ。」

こちらは何年か前、あるサイトに投稿したものです。

題名もそのサイトで知り合ったお二方の協力を経て決まりました。
感謝です。

痛い

君を見る

追いかける

転ぶ

痛い

でも 血は出ない

君と会う

話しかける

殴られる

痛い

でも 怒りは出ない

君は泣く

なぐさめる

無視される

痛い

でも 君は好き

君が来る

手を上げる

僕じゃない

痛い

でも 君はいる

君という

心地よい

君が落ちる

痛い

でも 僕は合格

君が来ない

いやだ

連絡なし

痛い

でも 僕は待つ

君から電話

とる

切れる

痛い

でも 受話器は置かない

君を探す

いない

いない

痛い

でも 僕は探す

君を見つける

捕まえる

逃げられる

痛い

でも 僕は追いかける

転ぶ

痛い

でも 君は停まらない

君が死ぬ

痛い

痛い

痛い

でも 僕は死なない

痛い（後書き）

14 作目「痛い」です。

EARTH様感想ありがとうございます。

と、ううんと。

You are kind enough to kill me.

今日はもう無理です

続きは明日にいたしましょう

かわいいBaby わたしのBaby
あんたはわたしを殺す気かつ

You are too kind to grow me.
あれ買つて

オーケー オーケー

大事なBaby わたしのBaby
あんたはわたしを殺す気かつ

Do you know that you are killing me?

甘やかし過ぎ そのせいで
わたしはこんなに 弱くなつた

あんたはわたしを殺したんだ

と、いうことで。(後書き)

15作目「と、いうことで。」でした。

物語を探すキミ

Our new story we got is so boring.
ad that we can't make other stories.

I think why it is bad.

But I can't understand.

Here is some old stories.

Few people see them.

So I made them wonderful.

A few people see them.

But you didn't see.

I was crying because of you.

Our story became old.

You found new stories.

So, I hate you.

物語を探すキミ（後書き）

16 作目「物語を探すキミ」

英詩？ テキトーに書きました。すんません。

雨のち雨でございます

今日は雨の模様です
傘を忘れずに

そんな予報をケータイで
電車の中で眺めたさ

今朝は晴れてて
傘は家の玄関さ

明日も雨の模様です
今日に聞いても意味がない

昨日は雨だったようです
だからなんだというんだ

どうも私 天気予報士
新たな情報をお届けします
だったら答えを見せてくれよ

雨^{はれ}です
あっそ

雨^{かみなり}です
またかい

雨^{トルネード}です
いいかげんにしてくれないかなあ

ブラックハートアンドホワイトハート

雨です

そろそろ怒るよ？

あなたは雨の模様です

雨のち雨でございます（後書き）

17作目「雨のち雨でございます」

次作は十八番おはこです。おたのしみに。

守ろう言葉を

僕は韓国人

だから多色の言葉の中で

特に韓国語を使う

韓国語の詩を書く

意思疎通の手段が

いつから文化になったのか

いつから伝統になったのか

いつから消えるようになったのか

僕は地球人

ならば多色の言葉の中で

どれを使えばいいのだろう

なにを守ればいいのだろう

意思疎通の手段は

いつから必要とされたのだろう

いつまで必要なのだろう

守ろう 言葉を

讀えよう 言葉を

繋げよう 言葉を

僕は宇宙人

地球という星に住む 宇宙の住人

僕は世界人

宇宙という空間に住む 世界の住人

守ろう 言葉を

讀えよう 言葉を

繋げよう 言葉を

言葉は

いつになったら一色となるのか

そのとき言葉は何色なにいろなのか

そんなこと

そのときになれば 分かる

守ろう言葉を（後書き）

今回の十八番作品。^{おはこ}「守ろう言葉を」です。
技術とかはほかのとどっこいどっこいですが、内容に自信あり。

伝統・文化に熱い韓国人を語り部とした、言葉の話。

言語は、いつから文化になったんでしょうかね。

では。この詩集はまだまだ続きます。

母界語

なぜ言語はこんなにもたくさんあるのでしょうか

わたしはあなたに伝えたいことがあるのに

わたしとあなたの故郷が違う それだけのことで

わたしとあなたの言葉が 全然違う

わたしはあなたの想いを

あなたはわたしの意見を

どうしても理解できない

言語はいつたいいつになつたら^{ひとつ}1になるのでしょうか

わたしはあなたを理解したい

泣いているあなたを なぐさめたい

そのために言語を統一しましょう

たくさん勉強が伴うでしょう

でも しんどいのは最初だけです

共に笑う そのときのために

母界語（後書き）

19作目「母界語」 18作目が長歌だったとするならば、こちらは反歌。

あと、18作目とこの詩は、あるお方の日記を読んで、「ああ、そういえば」といって去年学校の宿題で書いた詩を探して和訳し、想像を膨らませ書き改めた作品です。

なかなか上手くできたんじゃないかなあ、と思います。

では、謝謝☆

雪の季節

☆★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
★☆☆☆☆

手のひらに

雪のしずくが

舞い降りる

踊りさらねん 雪たちが

僕の手ひら 死んでいく

肩の上

雪のしずくが

飛び移る

アクション起こさん子供たち

僕の肩の上 死んでいく

心内こころうち

壊るるしずく

よみがえる

良かった 善かった 本当に

踊り舞う 真っ白な踊り子たちが

僕の心を洗ってくれる



雪の季節（後書き）

20作目「雪の季節」

「死んでいく」の部分が掛詞になっていることにお気づきでしょうか。

やっと4分の1です。

あと80作……

**P
P
P**

p r e s e n t f o r y o u

公害なキミ

きつとキミ

もうすぐ環境問題になるから

さっさとうせろ

ついでに金くれ

腹減ったじゃねえか

俺に金をくれ！

お前公害なんだぞ？

環境問題になるまえに

俺に金をくれ

もう何日食ってないか

プレゼントフォーユー

だろ！？ だろ！？

スペル分かんけど

それは金がないせいなんだ

公害なんだろ

だったら消えろ

環境問題になるまえに

お前が俺にできること

それはたったひとつ

金をくれ！

ついでに俺以外のやつのために消えろ

公害なんだろう？

PPP(後書き)

21 作目「PPP」

永遠の眠り姫

雨が降る。

雨が降ってるこの今は、お日さまはどこに隠れているのだろう。
雨が降ってるこの今は、お日さまはどこで休んでいるのだろう。

姫は眠りに就く。

姫が眠ってるこの時に、姫は永遠の旅に出る。
姫が眠ってるこの時に、姫は無限の旅に出る。

雨が止む。

とたんにお日さま顔を出す。

お日さまが出てるこの今は、雨はいったいどこへ逃げるのか。
お日さまが出てるこの今は、雨はいったいどこを濡らすのか。

姫が起きる。

とたんに姫は旅を止む。

姫が起きてるこの時は、姫の旅路は生きているのか。
姫が起きてるこの時は、姫の夢路は出来ているのか。

姫は、雨の家永遠の眠りに就く。

永遠の眠り姫（後書き）

22 作目 「永遠の眠り姫」

さっくんば！

く遠い 遠い 遠くの国でく

Few people found out your country broken by Father.

しかしあなたは言うのです

”Black is me. Black is me.”

悪いのはわたしだ 悪いのはわたしだ

Many people said, ”Die or be killed.”

酷い話です 故郷を忘れた者はいない
しかし 故郷を忘れる者はいるので

You said, ”I don't know your point.”

それでもわたしは唄うのです

One of them said, ”I'm sad.”

だからと言って あなたが悪いのです

遠い 遠い 遠くの国で

奇声を上げる

Oneがいます

「さっくんば！」

I can't understand but I know
what that is.

さっくんば！ さっくんば！

く遠い 遠い 遠くの国でく遠い 遠い 遠くの国で

さっくんば！(後書き)

23 作目「さっくんば！」
さえ。

奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と（以下略）

「生きている。それだけで奇跡」
キミは歌う

「神様はいる、絶対に」
キミは歌う

ボクの唱
「あたりまえのこと、偉そうに言うんじゃないよ」

ボクの唱
「それよりも——足元をごらんよ。毛虫だらけだよ」

ボクはキミに出会う
そんな夢をみた
その些細な夢は
ほんもの
現実になった

キミはボクに出会う
そんな恋をした
その矮小な恋は
げんじつ
本物になった

奇跡を探す キミのとなりに
奇跡の渦が 襲い掛かる

奇跡を壊す ボクのとなりに
奇跡の愛が 降り掛かる

ああ それはまるで

「生きている。それだけで奇跡」
「だったら——死ぬことも奇跡」

「神様はいる、絶対に」
「だったら——何だってある」

「奇跡は生きてる。神様が奇跡を創る」
「だったら——ボクたちは神？」

さあ 奇跡を創ろうよ
神様のお仕事 全部奪ってやる
だから 神様
少しだけ 休みなよ
それとも さらなる高みを——

さあ 奇跡を壊そうよ

ボクたちの鬱憤 全部使ってやる
だから ねえキミ
少しだけ 笑いなよ
それとも さらなる――――

奇跡がある それだけで奇跡

さあ 奇^{うた}の跡^{あと}を残そうよ

奇^{あい}の跡^{うた} みーっけ！

奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と（以下略（後書き））

24作目！「奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と奇跡と（以下略）」でした！

久々に気持ちのいいのが書けた気がします。破調すぎますけどね笑

んでは！ まだまだ詩集は続きます！

マニュアル

聖夜が近づく 星が綺麗

そう思うのは マニュアルのせい？

みんながみんな

築いたマニュアル

あのひとの唄 聞き惚れる

そう思うのは マニュアルのせい？

わたしがわたしで

築いたマニュアル

わたしは わたしたちは

自分で作ったマニュアルに

縛られて生きていくんだ

あなたはこの星をどう思いますか

あなたはこの夜をどう過ごしますか

でも あなたとは違うから

あなたのマニュアル 読めないのです

わたしのマニュアル

みんなのマニュアル

あなたのマニュアル

みんなのマニュアル

だれが決めたのだろう

マニュアルを作りなさいって

マニュアルに縛られないで

生きて生きて 生きて生きたい
でも――

そう思う

それもマニュアル通り

マニュアル（後書き）

25 作目「マニュアル」

俗に言う「社会」というのは、偏見や差別を生み出してしまいます。

しかし、それにより私たちは生きているのかもしれないし、こうして詩を書けるのかもしれない。

それぞれに「ルール」というものがありますが、それが束ねられ、「社会」は構成されますが、どうもその考え自体、合理的に創られていたのかもしれない。

では。

皆既月食（前書き）

太陽と月 それと地球
お前らに この詩を捧げる

皆既月食

お月様

お日さまは

様でさまざまな星だけど

ときには隠れたくもなるんだ
常に隠れている地球が羨ましくて――だから

僕は君たちに機会チャンスを与えたんだ

僕らにとっての長い時間
そのうちの一瞬に

君たちは地球を媒体にして隠れることができる

会話文が嫌い

だから言葉はなしにして
お礼もとりあえず保留にして
定期的に君たちに

――お休みをあげる――

きっと――大切な時になるから

――きっと――きっと、――きっと

大切な時間になるから

きっと 嬉しいことが起こるから

君たちに

まだ いてほしいから

皆既月食（後書き）

26 作目「皆既月食」

明日は（2010年12月21日）日本で皆既月食が観測できる
そうです。

雨が降らなければ。

どうか見れますように――

Your **n**ame **i**s **n**ot **m**y **n**ame **b**ut **y**our **n**

My name is your name.
But—your name isn't mine.

A boy fighting with out person
he wanna save is dying because
e his name isn't my name.

So, I think.

"I must go out."
"And I must save him."

A girl having blue eyes told
me, "How will you go out?"

I answered, "I don't know too."
I was crying because of...

All is all.
All is all.

He said, "Don't worry."

All is all.
All is all.

So, I mustn't go out.

D
o
e
s

t
h
i
s

m
e
a
n

”
d
e
a
t
h
”
?

Y o u r n a m e i s n o t m y n a m e b u t y o u r n

27作目そろそろテキストな作品が増えてきました。

「Y o u r n a m e i s n o t m y n a m e b u t
y o u r n a m e s i s m y n a m e .」です。

僕を書く英詩の内九割方は真面目に作られてないんですね。かわいそうに。

誤字脱字等ございましたらご連絡ください。

あと、すっかり遅れてしまいましたが、イカル様、ご感想ありがとうございました！

では、

旅

鰭^{ひれ}のない魚は魚
羽のない鳥は鳥

脳のない人は人
心のない人は人
命のない人は人

たとえ人^{きみ}が ひとり でなくとも
たとえ人^{ぼく}に なまえ がなくとも

人は人だという事実を忘れないで人といっしょに歌ってよ

明日は雨が降る それが止んでも
雨は雨のままだから

たとえ人^{きみ}が ひとり でなくとも
たとえ人^{ぼく}に なまえ がなくとも

人は人

いつも横で笑う人がいて
それを眺める人も笑ってて
永遠の笑みを溢す
人は歌ったよ

人が泣いてる人の隣で
人は思いっきり笑ったよ
人は泣き続ける

たとえば人がそばにいたとしても
たとえば人が現世にいたとしても

人は人のなまえを呼んでよ
人は人のなまえを探してよ

人は人をひとつにするから
人は人を殺して減らすから

どうか——人の隣に。

旅（後書き）

28 作目「旅」です。

魚はどうしても魚

鳥はどうしても鳥

——人はどうしても人。

当然のようで、どこか糸口を探してる。

とりあえずラーメンは美味しいです。

無題のラブレター

君から届いた この手紙

一字一句 全部読んだよ

けれどもしかし だけれどどうやら
全然 意味が湧かないんだよ

私のおウチのゴミ箱にはね

君への手紙で いっぱいなんだよ

けれどもしかし だけれどどうやら
全部 おんなじ内容なんだよ

こんなにも 描いているんだ

こんなにも 書いているんだ

けれどもしかし だけれども
どうやらみんな 失敗なんだ

けれどもでもね 失敗は

成功というものの 母なんだ

けれどもしかし だけれどどうやら
その考えは おかしいよ

1回目で 成功すること

2000回目で 成功する人

どっちがいいかって そんなこと
きく前に 分かってしまう

けれどもしかし だけれどどうやら

すなわちつまり あるいはところが
ゴミ箱に 答えがあるかもしれない
失敗して 気付けたんだよ

君からの この手紙
じつはまだ 読んでないんだ
ビリビリに 裂いて丸めて
ゴミ箱へ ポイツ！

燃えるごみでね

返事は少し 遅れそう
君は待っててくれるかな
いつそのこと 戻っちゃいなよ
一緒に歩けるからさ

ペンはどこにあるんだろう
君が持っているのかな
あ そりゃないか
ゴミ箱にあったりして

そういえば 流れ星を見たよ
それも返事に書いとくね
それとも詩を書こうか
それで歌を歌ってよ
物語を詩にしてあげるよ
君は歌を詩にするんだよ
簡単でしょう？
絵を描くよりは

君はどこにいるのかな

もうそろそろ会ってもいい頃なんだけど
もしかして 隠れてるのかな
かくれんぼなんて いつ以来かな

君への手紙 いいのが書けそう
ちゃんと読んでね いい？
でも どこへ送ればいいの？
君はどうやったの？

あんな短い文章で
どうして私は 動いたの？
どうして私は 書いてるの？
君のおウチで いいのかな

早く私を 見つけてよ
早く君を 見つけなきゃ
君がいないと
手紙なんて書けないんだ 私

Dear you
親愛なる君へ
Where are you ?
私より

きつと君に 届くよね
返事はたぶん 来ないけど
ゴミ箱は 今日
捨てにいけます

燃えないごみだよ

無題のラブレター（後書き）

29 作目「無題のラブレター」

無題じゃなくて、これが題名です。

女視点。

ゴミ箱は今日、捨てにいきます。

ゴミ捨て寒い。

そういえば手紙ってなんですか？

言葉って難しいっ

それぞれの言葉の定義が崩れていく……ああ……

冗談が過ぎます。

では。

支配者と主導者

非常に時間がかかる

それだけだ

それだけか

そうかもしれない

世界が変わったところで

世界が代わったところで

世界が替わったところで

世界が換わったところで

僕はすぐには変わらない

私はすぐには代わらない

俺はすぐには替わらない

己はすぐには換わらない

君はすぐには変わらない

あなたはすぐには代わらない

お前はすぐには替わらない

うぬはすぐには換わらない

指導者は変わろうとするが

支配者は代わろうとするが

主導者は替わろうとするが

責任者は換わろうとするが

目標を変えられるか
思考を代えられるか
原因を替えられるか
思想を換えられるか

非常に時間がかかる
それだけか それだけだ
できるのか できるのさ
かかるのか しかたない

時間がかかって
時間切れ
時間がかかって
余韻ナシ

世界をかえるのに
人をかえるのに
人間をかえるのに
向きをかえるのに

時間がかかれば
まずとぼせ
あの時計が見えぬのか
残り時間が狭ってる

先に次の問題
すべては必ずつながるから
連鎖伏線思想完成
俗にいう新

あやま
過ちにいみがある？

ああきつとあるだろう

だがその前に

過ちの前を見てみないか

無駄に無駄で無駄でしかないこと

ああ必ずある

そこにも一応いみはある

だがその前に

君は君の主導者で

あの方は君の指導者で

僕は君の同族で

同族嫌悪も愛情も結局君が いるからで

君が消えても地球の軌道はかわらないって

地球が消えたら君はかわるって

思想自体が大正解で

思想だけで時間切れ

そもそも世界に差があるわけで

さらには世界は証明されていないわけで

されていると思ひ込んでるわけで

自分で行動しているわけで

国は結局地名なわけで

統一しても世界は広いわけで

狭くなったらつまらないわけで

どこにもそれは ないのです

支配者と主導者（後書き）

レーム様感想ありがとうございます。

30 作目「支配者と主導者」

彼らは双方に違う目的をもってして行動するが、だからといって結果も違うというわけではない。

軽く持論を無視した詩です。

あ、持論の文章書くんだったか。

もう少しかかりそうです。

言者くコトモノく

コトバアソビ
ビソアバトコ

今夜は氣取って言葉を揺らす
今夜は喜怒って言葉を揺らす

加減を知らない君は微笑む
下限を知らない気味は微笑む

正体不明の終わりを告げる
小隊不明の終わりを次げる

チョコがとっても美味しい
猪口が取っても美味しい

ごめんなさいって何度も言った
五面なサイって何度も言った

君は好きってなんども唱えた
黄身は好きってなんども称えた

愛してるってなんども思った
逢いシテルってなんども想った

扉を開く
戸片を拓く

未知の世界へ飛び出す
路の瀬界へ鳶墮す

たおやかな恋
たおやかな鯉

きれいな音楽
木霊な音楽

またいつの日か
またいつの皮下

雲ひとつない晴天
蜘蛛ひとつない聖典

マウスの接続不調
マウスの切俗府庁

ちよつとイケナイこと
鳥渡活けない琴

空気が死せる
食う気が死せる

なんでここにいるの？
なんでここに射るの？

さあ支度しよう
さあ私宅しよう

言者は言ったんだ
個と者は言ったんだ

君は病氣だよって
君は病期だよって

治してあげる
直してあげる

言者は言ったんだ
個と者は言ったんだ

助けてあげる
援けてあげる

だからわたしは
だからワタシは

ビソアバトコ
コトバアソビ

言者くコトモノく（後書き）

31 作目「言者くコトモノく」です。

クリスマスにクリスマスソングを投稿します。

もう完成しました。

お楽しみに・期待しない方が○

White day (前書き)

クリスマス用詩1／2

White-day

[illegible]

"Snowman is snowman" is natural
 Either you or I thought.
 I think it's true.
 I think you're wrong.
 They are snowmen going back."
 They are melting snowmen. The
 y are broken snowmen.
 n women.
 They are snowmen. They were s
 n women.
 There is a snowman. There are
 There is a snowman. There are
 snowmen.
 How many times have you become
 snowmen?
 Do you want a snowman?
 Is "White, white snow was made
 by you." true?
 But, think.
 from the left, you made.
 Underful as that snowman, second
 No any other snowman is a snow

e s.	S o	a k e	W e	r e	S n o w	r e	S n o w	o m	a l
	t h e r e	s n o w.	s a r e n ' t	s n o w m e n.	s n o w m a n i s	s n o w m e n.	s n o w m a n i s	i t ?	b u t
	a r e		s n o w m e n.		s n o w m a n.		s n o w m a n.		w h y
	m a n y, m a n y		W e		S n o w m e n		S n o w m e n		a r e
	m i r a c l		c a n ' t		m e n		m e n		w e
			m		a		a		s u f f e r i n g f r

white day (後書き)

32 作目 (クリスマス用) 「white day」

悪戯好きのクリスマスの妖精が、気まぐれに僕に運をくれたよう
です。

自信作です。

「雪 (snow)」って不可算名詞ですよ。なのに「雪だるま
(snowman)」は数えられます。

それはまるで命を宿したようで、作った本人はまるで神と自分と
を同一視するでしょう。

しかし、結局我々はパズルのピースを組み合わせるように、
元々からあった「雪」を組み立てていることをお忘れなく。

では、次のページもクリスマスポエムです。

Merry Christmas (前書き)

クリスマス用詩2／2

Merry Christmas

Merry Merry Christmas.
Merry Merry Xmas!
Merry

とても不思議な生業

ノエル ナビダー ヴァイナハテン
どれもかれもな不思議な夜に

今日はspecial day なのに
君は君 君のまま

今日はwhite day なのに
赤は赤 赤のまま

赤い服のおじいさんが
わたしに絵本をくれるんだ
Merry Merry Christmas.

おウチを綺麗に彩^{いろど}って
Father Christmas 歌ったよ

今日は特別な日 だから
大きな大きなCAKEを食べて
みんなで歌を 歌ったよ

魔女ベファナが炭を配る
それはちよつと 後の話

Merry Merry Merry Xmas.
How wonderful today is!
How happy we are!

さあ 笑おうよ

雪だるまも笑ってる

SNOWMAN SNOWMAN

SNOWMAN SNOWMAN

SNOWBOY SNOWBOY

SNOWGIRL SNOWGIRL

みんなみんな 笑ってる

雪だるまは雪だるま

でも

君は君

でも

クリスマスは楽しいんです
クリスマスは嬉しいんです

それだけで——クリスマスは特別な日

Merry Christmas (後書き)

33 作目 (クリスマス用) 「Merry Christmas」

ベファナ。1月6日に良い子にお菓子を配り、悪い子には炭を配る魔女です。

では。メリークリスマス。

LOCK on ROCK!

LOCK on ROCK!　そういうこと
あなたの　わたしの
心のビート　鍵に掛けて

ラララLALALA歌ってる
ラララRARRARAはしゃいでる

そんな　あなたと
そんな　わたしは

LOCK on ROCK!　そういうこと
鍵に掛けてその鍵は

ラララLALALA歌う鍵
ラララRARRARAはしゃぐ鍵

そんな　あなたは
そんな　わたしに

LOCK on ROCK!　LOCK on ROCK?
でもところがしかしその鍵を

無くしたあなたは

無くなるわたしを

” L O C K o n R O C K ”
O C K ”
o r
” R O C K o f f L

永遠と響く拍手を
延々と割れる涙を

永遠を謳うあなたは
延々と歌うわたしと

きっと——そこに答えはあるから

LOCK on ROCK! (後書き)

34 作目「LOCK on ROCK!」

いろいろと隠れている詩(?)になりました、

では。

盾矛

もうたといえ

君がいなくとも

もうたといえ

僕が消えようが

そこに何かがあった それだけは
一生変わんないんだよ

100万年後の自分を

ほら 想像して笑ってよ

しわくちゃになったその顔を見て

ひとり ほくそ笑んでよ

もうたといえ

未来地球がなくとも

もうたといえ

未来宇宙が消えても

そこにあつた そういう声だけは
一生残るんだよ

ああ だから

僕が君を殺そうが

君が僕を潰そうが

そこに人がいた その記憶だけは
一生 なくならないんだよ

もう こんな世界無くしちゃえよ
もう こんな世界失くしちゃえよ

それなら 馬鹿な道理も一緒に消えて
桃源郷も目の前だろ？

ハハ ハハ ハハ
ララ ララ ララ
ハハ ハハ ハハ
ララ ララ ララ
ハハ ハハ ハハ
これが一生続くんですね はいはいはい

盾矛（後書き）

35 作目「盾矛」

広報

潔癖症の少年は

ひとりひとり すべてのモノを嫌いました

人間不信の青年は

ふたりそれぞれ ひとつのある人間しゅうだんを恐れました

極悪非道な男性は

みつつよつと 人をモノとして考えました

すっかり衰えた老人には

なにも残っていませんでした

泥中で楽しく遊ぶ少年は

ひとりひとり すべてのモノを笑いました

幸福信者の青年は

ふたりそれぞれ ひとりのある幸福にんげんと出会いました

順風満帆な男性は

みつつよつと シアワセを積み重ねていきました

すっかり衰えた老人を

ひとり ひとり ひとり たにんげんくさんのひとりが敬います

綺麗を好む少年は きっと汚くなりました
何でも好む少年は きっと綺麗に笑います

さあ どちらが 人 でしょう

広報（後書き）

36 作目「広報」

ただ綺麗でありたかったはずの少年が、なぜこういう結果になってしまったのでしょうか。

綺麗の区別のつかない子供は、なぜ幸せになったのでしょうか。

そんなの、少年のときにははっきり言って区別なんてないんでしょね。

今の非行・良行を、昔の少年期のせいにするのはおそらく間違いでしょう。

少年は、個性豊かですから――

では。100作まで程遠い……

小悪魔

ほら悲しいことが起こったなら
まわりの真似をして泣けばいい
そうすればキミは

異端者とは呼ばれなくなるから

ほら嬉しいことがあったなら
まわりの真似をして笑えばいい
そうすればキミは
かわいい女の子になれるから

ほらもしも怪我をして痛いんなら
痛いといって泣けばいい
そうすればかわいいキミを
守るナイトが現れる

ほらそのナイトが動かなくなったなら
思いつきり笑うといい
そうすればキミは
また異端者に後戻り

そうすれば
一生生きて暮らせるでしょ？

小悪魔（後書き）

37 作目「小悪魔」

最近ネーミングセンスが悪いです、僕。

うーん、題名命なんだけどなあ……。

では。

川岸に咲く花のように

川の流れに従う桜がひとひら
川の流れを見つめる君がひとり
僕はどちらに見とれていたのだろう
きつと　ぼうと咲く彼岸花――

たとえば君に前世があっても
たとえば君に来世があっても
君がそれを覚えてないのなら
それは君の人生じゃないんだろう

君はたったひとつの人生を
前世に食べられないように
来世に奪われないように
今のために生きなきゃだめだよ

永遠とわに咲く彼岸花のように
一瞬に散る桜の花のように
君は今を生きなきゃだめだよ
君は皆に慕われる桜なんだよ

雨が降る

ああ　君はもう終わるか
来世また会おう
君は君ではないけれど

川岸に咲く花のように（後書き）

38 作目 「川岸に咲く花のように」
w
w

目標考察

寒いこのごろ 手を洗う
ネクタイ濡れる 水がつく
水を払う シャツにつく
シャツ濡れる 水がつく

それを見て あなたが笑う
無邪気に無邪気に
それでも笑う

あなたのその笑顔が 明日の僕を築いている
ああ 気付いてる
いや 気付かない
あなたのその涙を 今日僕と替えればいいのに

寒いこのごろ 手を拭くと
ネクタイ乾く 水はある
水を払う シャツにつく
シャツ濡れる 水がつく

それを見て あなたが笑う
無邪気に無邪気に
それでも笑う

ああ 僕は何ができるだろう
ああ あなたの笑顔で 僕は何ができるだろう

目標考察（後書き）

39 作目「目標考察」

最近詩集の制作が停滞気味ですねえ。

どうにかしましょう。

100 作までまだあるようで。

書き貯めなんてありませんし……大丈夫かな？

どーでもいいー

If I'm born in your heart,
I'll not see you.
Because you was born in my
love.

だってだってだって なんだなんだなんだよ
そうさ僕が君の心で生まれたんなら
僕は君には会えなかったろう

そうさそうさそうさそうさ だってだってだってだてめがね
君は僕の愛で生まれたから
君が君でいられない

もー意味わかねえ
「ん」が抜けたよ 掛詞
君に会うため 僕は僕のままでいる

はっきり言って
どーでもいいー
はっきり言って
どーでもいいー

大事なことは2回言おう
大事じゃなくても1度は言おう

だって 僕は僕だもん

どーでもいいー(後書き)

40作目「どーでもいいー」ですが。

意味不な詩でごめんなさい。

自分でも分からずちやっちやらちやゝと書いてしまいました
誤字しゝい

んであら。やつと4割！

ならば

哭^くを知^しった猫^{ねこ}はきつと関^{とき}の渦^{うず}中^{なか}
エナメル^{えなメル}の塗料^{とりよう}を描^ぬり叫^{さけ}びながら

獄^{ごく}の中^{なか}で詩^{うた}を創^{うた}う犬^{いぬ}は守^{まも}られ
たかが命^{いのち}塗料^{のちわぬり}で隠^{かく}されながら

とても綺麗^{きれいきみ}命^{ひとみ}の欠片^{なが}眺^ほめ惚^ぼれてさ
たかが命^{いのち}されど命^{いのち}募^あめながら

酔^よを取^とった猫^{ねこ}はきつとただの植^{しよく}物^{ぶつ}
銅線^{どうせん}を食^くい千切^{ちぎ}り騒^{おこ}られながら

されど犬^{いぬ}は詩^{うた}を創^{うた}う監視^{かんし}されてさ
だから猫^{ねこ}も渦^{うず}と共に肖^{あや}れながら

だからきつと心^{きみ}もずつとそこにいるのさ
だからきつと僕^{ぼく}はずつとここにいるのさ
僕^{きみ}はきつと思^{わか}ってるさここがどこかさ
だからもつと動^{うご}いてよそこにいながら

キミはきつとずつとボクとトモにいるのさ
ボクはきつとキミをずつとまっているのさ

待^まっているから
待^まっているから

きつ
とい
る
か
ら

ならば（後書き）

41 作目「ならば」

やっと気持ちのいいのが書けましたね。自分の中では。
ふりがなをフルでつけました、なぜだろう。

まあ今回は他の読み方をしてもらいたくなかったからでしょうが。
では^^

夢追

一通の便箋に込められた　ちいさなちいさな私の夢が
急に動いて逃げ出した

はあ溜息を出しても　便箋は走っていく
私はそれを追いかけた

最初で最後の大事な夢を　あなたはどこへ連れてくの？
頭のアルバムにしまいこんだ私が悪いの？

私のこの想いを　あなたはどこへ逃げていくの？
便箋に閉じ込めた私が悪いの？

気付けば私は　あなたの席に
そこで便箋捕まえた

最初で初めの私の夢は　最後で初めの私の夢は
アルバムにしまっても　便箋に閉じ込めても

あなたの席で　ひとりあなたは
とりあえず持つておきなよ　あなたの唄

一通の便箋に詰められた夢は
ひとつの大きな夢と化した

一通の便箋で騒ぐ夢は
ひとつの小さな夢だった

あなたの席に　ひとりあなたが
持っておきなよ　私の唄

だから　それ

必ず使うときが来るから

夢追（後書き）

42 作目「夢追」

まあ疲れたら休もうよ

Let's sing a song and a poem.
There are special songs in your world.

Here are wonderful poems in my room.

So, let's sing.

In your world, you saw me.
My room from fire is taken out by your you.

He teaches me what to do but I don't know who he is.

For example, can you see you?

Let's sing the song and the poem.

There are awesome songs in your special world.

Here are colorful poems in my wonderful room.

So, let's sing.

You said me "You are NEEET".

Oh, how rude!

Do you hear my words?

Hey, tell me a reply.

S
o,
l
e
t
'
s
s
i
n
g
.

r
e
a
s
o
n
.

Y
o
u
d
o
n
'
t
h
a
v
e
t
o
s
a
y
a
g
o
o
d

N
o
p
r
o
b
l
e
m
.

S
o,
l
e
t
'
s
s
i
n
g
.

m
y
r
o
o
m
.

B
u
t,
b
u
t
a
n
d
b
u
t
y
o
u
l
o
o
k
f
o
r

まあ疲れたら休もうよ（後書き）

44 作目 「まあ疲れたら休もうよ」

明日から冬休みが開けるー。

てことでウォーミングアップがてら英詩を書いてみました。

スペルミス等ございましたらご指摘お願いします。

にゃにゃにゃ (前書き)

前作「にゃん」とは何の関係もありません。

にやにやにや

にやん にやん にやんにや

ご主人しゃみやが 言ったんだ

「明日は仕事。明後日も仕事。

未来のために 僕は働く」

にやん にやん にやんにや

未来にやんて 神しゃみやにみやかせりやえーのに

未い来にやんて どーでもいいーのに

今がシアワセにやら ずっとシアワセにやら

にやん にやん にやんにや

今を生きるにや ご主人しゃみやと

シアワセは ぽっかぽか

シアワセが未来を引っ張って

にやん にやん にやんにや

にやん にやん にやんにや

.....

うにや~~~~ん

シアワセのお時間にや☆

にやにやにや(後書き)

44 作目「にやにやにや」

血

生きて生きて生きて生きて
何を求める

死んで死んで死んで死んで
何が変わる

死ねば生きる生きる死ねば
だから何だと

死んだところで
生きたところで

意味を看做す 生きて何を
意味を探す 死んで何と

目を見て話せ
蝦夷の君が琉球に流れ着くとは

だから何だと
だから何だと

死ぬな生きる
死ね生きるな

だから何だと
だから何だと

折れる心 決る笑顔
己の涙

なぜ泣くのか なぜ喚くのか
だから何だと

乱す命 育つ命
それをどうする

乱れ育つ命 それに肖る君は
だから何だと

どうでもいいか
だから何だと

血（後書き）

45 作目「血」

おしろい楽器

深い深い 庭化粧

葉巻の煙が風に舞う

汽笛が唄う 遠くの道へ

鉦鼓奏でる 庭化粧

香しきこそ 庭化粧

鳥の囀り 壁の耳

屋敷が笑う 近しい木々を

箏篳唄う 庭化粧

悪魔ぞありける 庭化粧

踏絵に向かう 白い足

天使が歎く 無情に無邪気に

小鼓踊る 庭化粧

向かうる火花 庭化粧

愛称飛び交う 林の林檎

兎が跳ねる 見えない城へ

琵琶は訴う 庭化粧

知らぬが仏 庭化粧

魚の煮付け 障子に目あり

布団が包む 赤子の寝顔

三味線切れる 庭化粧

雪が朦朧 庭化粧

擦れる虫唾 蜘蛛の糸
庭に有るもの 化粧して
私は至る おしろい楽器

おしろい楽器（後書き）

46 作目「おしろい楽器」

久々に真面目に書いた気がする・・・
伝統楽器と、和風景色、ですかね。

兎だとか、一応冬のつもり。
のくせに鳥が囀るとか、春を混ぜ。

いろいろと気持ち込めたんで。
何かありましたら気軽に感想お願いします。

僕の原動力になってください。

＊語句＊

- ・鉦鼓^{しょうこ}…打楽器。日本の伝統楽器。
- ・箏^{ひちりき}…竹製のたて笛。日本の伝統楽器。
- ・小鼓^{こづつみ}…手で打つ打楽器。皮が張ってある。日本の伝統楽器。
- ・琵琶^{びわ}…弦楽器。インドらへんから日本にきた。
- ・三味線^{しゃみせん}…浄瑠璃などで使われる弦楽器。
- ・虫唾^{むしず}…むかむかするような不快なこと。
- ・葉巻^{はまき}…タバコのこと。
- ・おしろい…色白に見せるための化粧品。

では。読んでくださりありがとうございます。
テキストなやつですが、詩集はまだまだ続きます。
U17を今後ともよろしく願います。

rain

「好きにしていよ」

見放される優しさに

愛情の軽さを知る

優しさの雨が降るのなら

傘を燃やそう

でも 燃えつきる前に雨が火を消してしまうけど

雨の中

傘は捨てればいい

なにもしなかったら 病氣らしいよ

レオンを捕まえ

見放される恐ろしさに

憎悪の重さを聞く

憎ましい雨が降るのなら

傘をささなきゃ

でも 傘はいつかに捨てちゃった

雨の中

傘を捜さなきゃ

なにかしすぎたら 病氣らしいよ

我慢しなくちゃ 雨が降る
傘は折りたたみ式に
病気の僕は 愛されている

r a i n (後書き)

47 作目 「r a i n」

ふわふわ

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
誤字選る 意味深蝶
遠いとおい 昔の森で

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
誤字纏う 愚問具糖
天才てんさいの 昔の街中で

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
にやにやにやにや 頼らない
ワンちゃん わんわん くしゃみが出るの

ふわ ふわ
ふわ ふわ

鉛筆を削る 黒い粉くしゃみが出るの

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
エゴじゃないけど きつとそうなの

SMILE ME! 教室の片隅で

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
噛み付く 命食べるの
レッスン そうじゃなくて

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
進化する 神様の本

猫にゃん あたたかい家

ふわ ふわ

ふわ ふわ

評判悪い けど とてもいい

あなたがそばにいて あなたのそばにいて
あなたとそばにいて そばにいるあなた
きつと 生きているよね？

ふわふわ（後書き）

48 作目 「ふわふわ」

ふうざけんなよ 一緒に来てよ
乗らない葦食う 甘くはないね

きんちよー きんちよー

緊張してる？ いいやダイジョブ大丈夫

らんらんらんらんらんらん

One Two Threeで略してOTT

あら普通じゃん

普通はフツー？ いやいや奇跡

奇跡の軌跡 輝石は奇石

うう 心配するなよ 生きてるからさ

大衆文化の金が鳴く

ほら命は売れる 安いけど

冬は寒いからコタツに入る

あとがき まえがき んなもん知らねえ

おばさんおじさん あっちにいるよ

でも行かないほうがいいみたい

あとおじちゃんお婆ちゃん あっちにいたよ

At here で いろいろいろいろ

ところでこれは いつ終わる

終わりの見えない 物語

でも 楽しいんなら

何でもいいじゃない

ライトノベル（後書き）

49 作目 「ライトノベル」

よぼーせっしゅとかいう世坊説守

ねえ お母さん

ついでに お兄ちゃん

概念の違いだよ

ビョーキは怖くもなんともないよ？

よぼーせっしゅなんて

ビョーキを怖がる証拠だよ

ビョーキに負けたくないんなら

ビョーキは怖くない って

ビョーキなんてぶっ飛ばしちやえ

よぼーせっしゅ？ 痛いのは嫌なの

そんなもん受けたら 気持ちブルー

そのとき ビョーキが侵入！

とつとつ 失せろこのやろう

侵入者発見 もうメラメロ

意味不明？ それって君のこと？

ビョーキは バイバイ

ねえ お父さん

ついでに お姉ちゃん

お一ついかが？

ビョーキなんてそもそも無いんじゃない？

よぼーせっしゅとかいう世坊説守（後書き）

50 作目 「よぼーせっしゅとかいう世坊説守」

呪文のいらない魔法

オブジェクトの姿で
フアーマと一緒に謡おう

粉々に砕けたその瞳
明るい光に満ちて
それでも君は
青空へと駆けていく

ただひたすら
遠く近く

魔法をかけよう
呪文はいらない

サーシャ夢見る
コンサルティーナの空仰ぐ
その向こうには
あたたかい 呪文のない魔法

溢れる想いよ
届け魔法と
砕けた瞳は遠く近く
魔法に呪文はいらない

目が覚めて
夢はとっても痛い
オルタナティブと
巡り来る魔法に

イメージを磨く

ただひたすら遠く近く

魔法に呪文はいらない

青空はまだ青いまま

儀色の掴 目を閉じれば

痛い 痛い

遠くて近い

届け 呪文はいらない

ラジカル変なの

巡り来る想いよ

ありとあらゆるもの

青空はまだまだ青いまま

傀儡が降る夜は

月が真っ黒 お日様が消えた夜

呪文のいない魔法

届け オブジェクトの姿で

呪文のいらない魔法（後書き）

51 作目 「呪文のいらない魔法」

楽しみ重視。

うた

ねじれねじれて振れの位置に

もどりもどって戻れと謳う

さんろさんさろトライアングル

表へ出ろよ うたえようたえ 我が愚民共

強がりなホントは泣き虫で ぼろりぼろり
唄い謳えや 矢のごとく

キミの右手ずっと 離しはしないから
謳い詠えや 鏡のごとく

敵と看做して即座に攻撃 実は仲間だ
詠い詠えや 剣のごとく

ほらお座り お手 今日からワタシご主人サマです
謡い歌えよ 命とともに

世界で歌え 命とともに

仲間を謡え 昔のように

化物と詠え めぐみ
愛をこわし けもの

右手に謳え なみだ
涙であらう みぎて

主人へ唄う わたし
私はいない あなた

うた（後書き）

52 作目「うた」

これは命令です。

人は生きる 生きるから人
死んだら幽霊 幽霊≠人

I had been used.
Why was the boy breaking and
stealing shop's killed?
Over there, you said to me.
Poison me, please.
We weren't sad. So don't pois
on me.
He will poison. So we should
kill him.
New words, "xwe", will be broke
n.
Not because your making, becau
se of you.
Just. OK. You will be killed
or die.
The boy and a blue and blue s
ick are going to be killed.
Everyone will be killed. Ever
ywhere.
The killing you made will be
killed BY ME.

転ばぬのなら杖を折れ 落ちないのなら猿は死ね

みんな殺す わたしが殺す

だからそれまで——生きてなさい

これは命令です。(後書き)

53 作目 「これは命令です。」

即興で書いたけど、なんとなく自信作？

LIKE SONG

I like you cuz you're liked by me.

You said to me, "Gee."

I heard that the polyethylene
terephthalate bottle you bought
this 150 yen.

Sorry. To tell the truth, I'm
looking for it.

I don't have some coins.

Will you lend to me?

Today is beautiful but I'm still
looking for it.

You look an educated person.

What? Am I E-boy?

You said to me, "What means?"

I know you don't know it. So
I sang.

Es a pert of "Not in Education
ion, Employment or Training."

"Gee!"

Oh, yes. I like you.

If you hate me, but I like you.
I like and like you.

I can be false. But, how about
you?

End the truth.

Moon is smiling. But, how about
 you?
 I can't come back beaming with
 joy.
 The polyethylenes were phthalate
 bottles you bought was looked
 for.
 I lost.
 I lost.
 Will you show me where coins
 are?
 "ALL RIGHT"
 The wish I had can't disappear a
 r.
 The poems you had will go out.
 Perhaps, I won't be able to love
 you.
 But, I like you.

L I K E S O N G (後書き)

54 作目 「L I K E S O N G」

ふむ。まあまあ。

でも、これいけるんじゃない？
とか言いつつ。

国境

どうしても 越えられない

そんな壁があるんだ

どうしても 超えられない

そんな線があるんだ

“ 君ロシア わたしはアメリカね ”

笑って言った 僕を指差し

悪気はない そうなんだろうけど

僕はショック 君外人さん

国に属する国賓国民 国家のお国

戦って握手して もうバイバイ

握手して闘って もうサヨナラ

そんな壁と線があるんだ

ハンマーと勇者の剣で

国境なんて壊しちゃえ

でも国境がなくなっても

離れているのは いつだって

どうしても無くならない

そんな壁があるんだ

どうしても失くならない

そんな線があるんだ

“ 君とわたし ところであの子は？ ”

意地悪ぶって 指差して

戯論はない そうなんだろうけど

僕はショック 君と二人きりがいい

国家間の権力 沸憤たるお国の事情

殺して弔って でも無くならない

弔って死んで でも失くならない

そんな壁と線があるんだ

魔法書と勇者の弓矢で

国境なんて飛ばしてしまえ

でも国境がなくなつて

結局困るのは 僕たちだ

あつたら忌み嫌われて

なくてはいけないものなんだ

そんな壁があるんだ

そんな線があるんだ

君は――ロシアね

国境（後書き）

55 作目「国境」

あなたのことが嫌いです

ところで ねえ

罪とか罰とかいろいろあるけど

不安で不安でしょうがないけど
ねえ あなたのことが嫌いです

ツンデレだとか ヤンデレだとか
どうにも住みにくくなって楽しくなったけど

未来も過去も現在も わたしが怖くて
あなたのことが嫌いです

勘違いはしないでね
嫌い ただそれだけ

動物は喋らないけど 植物は動かないけど
そんなの 分かるでしょ？

お澄まし顔で 何言うの
嫌い ただそれだけ

優しい唄流れる でも怪しい
どうにか戦争を終わらせて

不安で不安で不安で不安
嫌い ただそれだけなの

でも幸せに尺度はあるの？
みんな幸せ だったら——みんな不安なの？

いいえ 違うの

不安で不安で不安で不安で

それは——わたしだけ

みんなみんな——幸せなの

マーフィーも気付かない 摩訶不思議な未来
幸せってのがあるから——不幸って考えが生まれたんでしょ？

不安で不安で不安で不安で だけど
あなたのことが嫌いです

ただ それだけが希望なの
あなたのことなんて 大っ嫌い

難しいことは分からないけど
ねえ 不安は——

あなたのことが嫌いです（後書き）

56 作目 「あなたのことが嫌いです」

Blue Sky

もしも 今この地球^{ほし}が終わるのなら
でも そんなことに気付くこともできなくて
地獄でも天国でも とりあえず死んじやったとしても
今 空が青いから それでもいいのかな

碧い背景で 空を見上げて歩いた
何も覚えてないけど 何があったか知らないけど
静まり返った 死んだ地球で
空が青いや だったらそれでいいのかも

死んでも ああ 綺麗
白い雲 レールのように引かれた線
飛行機雲かと思って けど 誰もいない
雲は白い 空は青い 綺麗だ

石畳の上で 少し休んだ
座り込んで でも 空を見上げて
死体がこんなにも美しいなんて 知らなかった
空は青い いつまでも

こんな 死んだ地球で
空を見上げて歩いた 何を見てるの
あまりに遠いようだけど 何を見てるの
手を伸ばしても 空は青かった

でも ああ もしもの話

死んだ地球が また終われるのなら
スタートラインに一周廻って
空は青い 綺麗 だけど

空を見ながら休んだ 何が見えるの

青い 青い 空に雲がかかる

だから今 何をしてるの

終わらないのかな 死んでもそれは残ったままで

動物も植物も みんなみんな 地獄か天国へ

残ったのは死体と青い 青い空

終われない物語は どうして始まらないの

だから 空は青いんだね

死なないで 最後にそう言った私は

いつまでも 死ねないようだ

この死んだ地球と 私

青い空を求めて 今日歩く

Blue Sky (後書き)

57 作目「Blue Sky」

この詩には原作があります。

原作って言っても僕が昔書いた拙い短編を見つけたただけのことですが。

ほんと、拙い。

短編としてリメイクするにもそんな余裕ないので、
詩としてリメイク☆

結構いい感じ？

では、

捕まえたっ（前書き）

この詩は携帯版では非常に読みにくくなっております。
申し訳ございません。。

捕まえたっ

疎 どうしてもどうしてもどうしても きっとさねそうなんだって
死んで 宥

機 嫌って厭って否なんだってと 首を刳られても斬られて
もさ 葦

楽 ねえ実は君わたしのこと 強くなりたいそう思え

捕まえたっ（後書き）

58 作目「捕まえたっ」

概念

君は奇声を上げる 僕を見て
動かない 動けない
血まみれの 僕を見て

豪雨の中で 君は何をしてるの
僕なんか放つという
“逃げて” 言わなきゃ

ROLL アクセス
雪は降らない 水が溶かす
もうすぐ来る “逃げて”

君は携帯取り出す 僕見ずに
救急車？ そんなの知らない
それよりも 早く――

その肉体持て余して
さぞ 辛かろう
辛か 辛か

万事快調 謳った君は
今 なにをすべきか
いや “逃げて”

もうすぐ来る 絶対に
だめ 君は生きなきゃ

僕を捨てて 早く――

僕なんてどうでもいい

君さえいれば

僕は幸せさ

君は何も知らなくていい

全て 僕が担ぐから

総て 僕が受けるから

ねえ 君は生きる

僕は生きたい

それだけ それだけ

それから――

いつまでそこにいるの？

“逃げて” 僕の請えが聞こえない？

君は死んじゃだめだ

僕を殺す気かい？

――なら はやく“逃げて”

サイレン ROLL

近づく救急車 レスキュー員

ああ 来た

ROLL ROLL

神様 どうか

幸せを――ください

恐ろしいことを考えてないで
無垢な少女を 殺す気かい？
ねえ神様 僕は。

概念（後書き）

59 作目「概念」

R A R A R A t a l l m a n g i v e u s R A R A R A

のっぽおじさんが いました
ようきな ひとでした

かれはわたしたちに くれました

ある涼しい朝のこと です

みんな 泣きました

おじさんは 泣きませんでした

なぜで しょう

とくに はなしませんでした

でも 泣きました

特に 泣きませんでした

だから 泣きました

みんな 泣きやみました

でも 僕はとまりません

とまれま せん

追悼っていう 言葉

恐ろしい言葉 です

言葉なのに 人を殺せそうです

Good—Bye, bye を僕は買いました

とても 高かったです

だから 借金をしました

1日1円 返します

返すまで 死ねません
そう 決めたのです
でも しかし

甘い のです

雨も 降らないのです
雪は 溶けないのです

らら らラララ

おじさん は言いました
意味は 僕が消しました

聞く前に 消しました
だから分かり ません
ドアが 飽きます

存在に 目的に
ノブが とれました
でも ドアはドアです

おじさんは 言いませんでした
僕のこと 嫌いだななんて
でも 僕は言いました

泣かない彼に 向かって
そうしようと しました
でも とても難しかったです

難しいことは 嫌いです

だから みんな嫌いです
だから 無意味は大っ嫌いです

そうです

分節 単語

石 ころ以下です

でも 石は大切です

おじさんが 言いました

でも 言葉は危険です

みんな それに気づいても

無視し ます

いえ 忘れます

仲間に 会いました

仲間に 合いました

それも 一瞬のことです

意味ができれば

おわり です

これでスピー ちを終わります

R A R A R A t a l l m a n g i v e u s R A R A R A (後書き)

60作目は、リムーバブルディスクに埋もれていた、僕の過去（たぶん1, 2年前）の作品 「R A R A R A t a l l m a n g i v e u s R A R A R A」でした。

最後のスピーチの「ち」が平仮名になってるのは、まあ、分かりますよね？
分からなくても、それが真意です。

訂正などは施していませんが、まあ、どうにかなるでしょう。

過去の作品をこう、鑑賞するのはいいもんですね。
これだから、書き物はやめられない。

そろそろ新作の長編を投稿する予定です。
題名は「ラジカル★ガール」

では、あでうゝ

かっぱら〜めん

線のところまで お湯を入れ

ふたをしめて 待ちましよう

3分3分 こくこく時計の針刻む

でも ねえなんで

3分後 私が生きてるって

そんな 確信はないよね

あと2分で 隕石が

あと1分で 太陽爆発

そんな もしもの話

ラインを通り越して

お湯入れすぎちゃって

でも 分かるんだ 私

この3分間 3分後

私は 生きてるんだって

だって――

食べられないカップラーメンなんて

ただの不良品じゃない？

なら 食べることもできるよね

ほら 全部がそうなんだ

どれくらい 離れてても

一緒に星に暮らしてるんなら

生きていくんだ

生きて 生きて

生き過ぎたら のびちゃうけどね

背が伸びて 寿命も延びて

でも そしたらラーメンのびちゃうよ

ねえ だから――

“カップラーメンは優れものです

なんと お湯を入れるまでのびることなどないのです”

うん 美味しいね

かつぷらくめん(後書き)

61 作目「かつぷらくめん」

桜が舞うよ 雪と一緒に
窓から眺める その景色
綺麗で異例で 気味悪い
でも 君よりは綺麗かな
そう言ったら 怒られる
桜が舞うよ 雪が降るよ
桜と雪が 踊り舞うんだ
話してみよう あのひと
会談 屁理屈唄う応接間
支度をしよう 今朝の事
お偉いさんの 機嫌取り
大切なのは 今と明後日

明日のことは 考えない

桜が咲くよ 雪を背景に

君は歌った 嫌いですと

忌み嫌われる 私は辛い

桜が舞うよ 何を祝うの

雪が降るよ 何を忌むの

君はいない 何を望むの

今日も 私達は機嫌取り

桜雪間（後書き）

62 作目 「桜雪間」
おうせつま

地味に200字ジャストだったりします。

盲目の少女

遠くを見据える 横顔が見えた
何を見るの きつとそうなんだろう
盲目の少女は 遠くを見据える

姿勢正しく 手は膝の上
首だけ曲げて 何かを見据える
きつとそうなんだろう 何を見るの

手を引っ張って 視線の先へ
連れて行こう 僕らの未来へ
盲目の少女は 遠くを見据える

“ 光を見つけて 見えなくなったの ”
盲目の少女は 言い訳をうたう
道を開け 闇い空を

見据える先に 何が見えるの
僕には見えない 何があるのか
ふたりきりの誓い 坂に訊いて

大きな空のもとで 引っ張って行こう
何も見えない それでもいい
僕が君の目になってあげよう ふたりきりの誓い

光を見つけて 失ったのなら
闇を見つけて 失えればいい

この場所で 闇い空のもとで

ずっと待ってて いやだ

風に揺れるリボン 無色の飾り
道を歩こう 椅子から起きて

ふたりだけの誓い ふたりの道

盲目の少女は 僕が守ろう

この場所で 闇も失くして

何を見ていたって それでいい

見えるものが全てじゃない 見えないものが全てじゃない

僕と歩もう 坂を上って

盲目の少女（後書き）

63 作目 「盲目の少女」

淋漓

争点を取り除くとか 社会の非情に慷慨するとか

んなもん ハートに響かない

言いたいことでもあるんなら

心に響く 台詞をPLEASE!

夢を持つのはいいことだけど

んなもん 勝手に押し付けない

教えたいこともあるんなら

絶対聞こえる 大声PLEASE!

らあよらあよと うっさいなあ

癪ならそうだと 歌ってみなよ

好きなら好きだと ポエムをPLEASE!

争点を改めるとか 社会の正義を結託するとか

んなもん 全然おもしろくもない

論理を投げかわして 廊下に立ってろよBabe

倫理を明かしてさ ドラムを叩くのさ

夢は綺麗でも そのために汚れるの君は

だから言ったじゃん ギターで弾けろ!

くらっくらりと けだるいなあ

尺を延ばして 何するBabe

桜を引っこ抜くのさ ベースで芋焼酎

もう 流れてぶっこわして!

目覚まし時計は トイレに流そBabe!

聖人気取りの自称神様 それはあんた

悪かった でも反省はするなよ

社会なんてそういうものだろ？ だろ？

オッケー 入れ替えるよ

B a b e B a b e O h , B a b y どうしても？

夢を叶えるのはいいことだけど でも

廊下に立つのは 最近見ないな

どろどろどろどろ ねばっこい

どこからなにかが 飛び出した

止め処なくなく 死ねくそ黙れ！

全てのものもろ ぶっこわしちやえば A r e y o u

淋漓（後書き）

64 作目「淋漓」

生存報告がてらの詩です。

生きてますよ。ういなです。

結構揺れましたね。まだ余震が怖い
では。

B

好きな歌はなんですか

好きな本はなんですか

好きな人はだれですか

大好きなキミはどこにいるのかな

階段を転げ落ち

でも 擦り傷で済んだの今回

握手はしない 会釈できない

そんな 昨日が広がりゆくんです

ラララ 好きなフレーズが

頭の中 駆け巡り走った

拍手をしよう 犯人は誰だ

なかなかできるじゃないか 喧嘩を

かっこいい 名言が

頭の中 響き渡った

感銘受けた 誰かの台詞に

なかなかの出来じゃないか 横揺れ

キミは今 どこにいるのかな

心配だから 不安なんだし

手助けしとく キミのためになる

待っているから また笑い合いましょう

階段はまた上ればいいんです

段差はそのためなんでしょ

続けざまでも 一度だけでも

あったことそれが 大切なんでしょ

キミを待つんだ 一週間だけ

それを越したら 泣き笑います

階段だって 予想外でしょ

だから今日も 僕は生きていく

65
作目
「

B

B

(後書き)

」

三叉路

もう そろそろかなあ よく分かんないけど

僕の 目の前に 道がふたつ現われたよ

“Die or Live” そう気付く それはすぐだったよ

さあ どっち どっちに行こうか

ええと それは 意外と悩むようなんだ

Bad timing 僕の世界ではどっちが幸せ？

何も見ちゃいないんだ 何も聞いちゃいないんだ

Bad ending 現実なんだろ こっちもあっちも

胸張って足を出せばいい それで僕は救われる

でけど でも “さあどっち”

迷って悩んで 選ぶんだ

でも そのまえに 僕は振り返ったんだ

いつかのだれかさんなら “振り返るな”

でも そう 思ってたんだ

後ろにも 道があったんだ

まあ もうそろそろかな 意味不明だけど

僕の周りに 道がみつつも現われたよ

生と死 でも もうひとつは何？

Good timing 来た道に戻るのもいい

Happy ending “Die or Live”

迷って悩んで 選べない

どうしよう 選べない 決められない

だから いつかのどっかのだれかさんが

“何を悩んでいるの 道を進む必要なんてないじゃない”

僕は……空を飛んだんだ

広いなあ 壁のない世界

僕の前に 道のない道があらわれたんだよ

ほら ずっと遠くに ——それは曲線で一直線だ

放物線の どっかのだれか “ほらね”

だから 僕は家へ帰るんだ

三叉路（後書き）

66 作目「三叉路」

きっと世界は広がるよ
何を見ているんだい？

空を見上げてみなよ

——何が見える？

うん、そう

こんな日でも　こんな非でも　こんな被でも

空は——綺麗だろ

生死とか考えてる暇があるなら
募金でもしてくれませんか
節電でもしてくれませんか
生死を考えるのは勝手だけど、
考えるためには生きなきゃだろ

偽善でもいい

そもそも善とか悪とか、考えるのは面倒臭い

君が善を目指すのなら

僕は喜んで悪になろう

でも　そのためにも死ぬなよ

だって、そういうもんだろ？

僕はいつになっても怒れないよ

蟻に噛まれても　蟻に怒るやつはそうはいないだろう

偽善でいいんだ ガセネタでも構わない
ほら、空はこんなに綺麗だぞ

嗣子 〈 a n h e i r 〉

跡継ぎ争い 応仁の乱

んなことあった 昔話です

だけでも今回 跡継ぎ争いとか

醜い醜し つまんねーことしてるな

心を動かす 俺のミュージックのお力で

正直に咲き誇れよ 桜も梅も大将はこの俺様

銅と鈴とを 用意しろ

御璽を作れよ やっぱ天皇

御璽偽造及び不正使用罪で何だ

天皇勅語だ これ命令だぜ絶対服従

へとへとになるまで働きやがって 遊べ

何仕事マン気取ってんだよ お前は永劫休暇

食らえ攻撃 戦は恐い

みんな仲良く できんかな

俺様王様 なんとかしてやろう

嗣子はしっしし どっか行っとけな

すぐそばに なんか唄でも転がんねえか

ミュージックのお力で 世界は平和俺様勇者

仲間が欲しい 強い人

おいおい出て来いお前だよ

いつかのどっかの誰かのために

応仁の乱 んなもんいつかの昔の話

最新兵器 その名を「愛情」とかいって

世界は平和
俺とお前はだからそういうんだ

嗣子) a n h e i r) (後書き)

67 作目 「嗣子) a n h e i r) 」

嗣子 〈 a n h e i r e s s 〉

こおらこらって 召し使い
お嬢様は 走るべからず
それって決めたの 誰ですか
いますぐ 殴りに行ってくる

両足の親指を へし折られないように
もう折れてるふりをして
羊が一匹 二匹 三匹
全部買い取る 美味しそう

そこで夢から覚めちゃって
お嬢様 朝でございます
んなこと外見りゃ わかんじゃん
お外はだめです ウザい召し使い

よく見ると 召し使い
夢の羊に似ているな
あの気持ちも 忘れることはできないけど
今日も 走りに屋敷を抜け出す

我が家は今日も 大騒ぎ
へへーんだ 親指元気だよ
山に行こうか川へ行こうか
じゃあ まずはおの人のところへ

昔話が面白い 旅をやめた旅人は

今日の話は跡継ぎ争い 応仁の乱

戦争大賛成！ 苦笑いする旅人

旅をやめても あなたはいつまで旅人なの？

目を閉じて そう言われた

真っ暗なその先には

羊が一匹 二匹 三匹

お嬢様！ 私はもうすぐ

嗣子 〽 a n h e i r e s s 〽 (後書き)

68 作目「嗣子 〽 a n h e i r e s s 〽」

前作「嗣子 〽 a n h e i r 〽」とは、どうでしょう。
それぞれ独立した話です。

ところで、豆知識。

昔のナントカ時代の貴族の女の人たちは、
活発に動く〓嫁に行けない なので
5 歳くらいになると両足の親指をへし折って、
足の成長をとめて歩けなくするそうです。

まあ、そういう時代だったんでしょうね。

それを、なぜか免れた時代ズレの女の子。
前作は、将来有望な跡取り男の子。

どちらも嗣子です。が。

うん、それぞれ独立した話に仕上がっております。

では。

おつむ

おつむ足りない　いつものことです
何をぼんやり　立ってるの？

生きるか死ぬか　どちらがいいか
おつむ足りないから　わからない

いつまで経っても　お子ちゃまで
生きてても死んでも　役立たず
そういう役割　役不足？
力不足だ　わからない

どうにもこうにも　笑ってみても
そこにあるのは　木偶の坊
いてもたってもいられなくて　ペンで
天国地獄　どっちがいいか

でも　天国にしても地獄にしても
死にさえしなけりゃ　行かずに済むよ
だからさあ　早く

富士へ行くんだ　薬を探しに

おつむ（後書き）

69 作目「おつむ」

真愛

あなたに出会えて本当によかった
もしそれが嘘だったとしても
後悔さえできないほど
あなたを愛してしまっていた

どの風景が背景に成りえても
背景はいつまでも背景だ
そういつか思っていた
でもそれは間違いだったんだ

中心人物は脇役と結ばれた
あなたに出会った脇役は
ある小さな歌を唄った
事実が変わってしまわないよう

あなたに出会えて本当によかった
今なら胸を張って言いきれ
それがいなくなってしまう今も
そのことだって祝福してあげよう

真愛（後書き）

70 作目「真愛」

隠れ家

唾 桜が咲いたよ音の無い架空の野原 音が無くても生き物は
生きてける 舷

菟 楽器の無い国音沙汰無しです だけでも活動してる
らしいよ 慧

苧 音の無いところと言うと まるで死んだ場所
のよう 珂

徽 店主の活声のように ハチドリ羽の
よう 琥

祁 でも何にもない 音も声も出ず
に 跨

蓑 どうしてさ どのように
蓑 斯

諏 つまり なんで
諏 畝

會 笑 泣
會 侘

茅 生きて 死んで
茅 津

手 それだけで されど音が
手 渡

茄 生きてて楽しい 本当にそうか
茄 邇

な 聴覚無し生き様は されど四感なの
な 濡

かな 祢 もしその世界が五感なら もうひとつは一体
かな 埜

なんだ 頗 でもそんな幻想的な話なんて 音の無い世界にはき
匙

空	摩	る	有	蕪	嵯	男	魯	婁	螺	に	癒	んだ	裳	なんで	鵓	ないけど	眞	経	つとない
隠れ家の妄言だっていつか実るさ	そのために今を生きないとね	脊	生きたときに無くて	生きたとき	音の無い国	末	我	君の前	淫	豫	音の無い世界で	冶	分らない知らずに	麻	どうやれば気持ち伝える	魅	生き物を尊重しよう	桜が咲いたよ音の無い悲壮な野原	魅
それが机上でもそれが	音が迎えにやってくる	髓	死んだときに有	死んで歌を聴	音無し世界	ずつと	光	歌の原	聞かせよう	歌を歌うため	どうやればいい	この世界の住民は	歌っても誰も聞こえ						
		楽				ミライ	闇												

無音でもね家

隠れ家（後書き）

71 作目「隠れ家」

以前、「捕まえたっ」に頂いた感想で、
作ろうと思っていた作品です。

音の無い世界。

ですが、音がなくてもこの詩のように「形」はあって、
だから、音ってそういうことなのかもしれませんね。

コーヒーの唄

キミの寒いギャグだって
キミの篤いオモイだって
それはそれはキミのもの
僕は何にもしやしないよ

ほらコーヒー淹れますか
大丈夫お金はいりません
ほらコーヒー飲みますか
大丈夫味は自信あります

キミが何を願ったってさ
キミが何を望んだってさ
それがあまりに苦くても
砂糖入れたら負けですよ

ほらそこのシロップ瓶を
僕にお渡しくださいませ
何かご不満のようですね
僕は実を言うと甘党です

キミの夢はなくなります
誰かにどこかで飲まれて
誰かが誰かは言えませんが
僕は実を言うとキミです

コーヒーの唄（後書き）

72 作目「コーヒーの唄」

ランチタイムにどうぞ。

7月14日に、最後の文を「僕は実を言おうとキミです」から「き
っとキミは僕そのもの」に変更。

8月1日に、元に戻しましたw

A
ア

ああ ああ ああ

本当に 本当に

ア……

これはそれ？

それはこれ。

ここはそこ？

そこはここ。

If there is here, you are not
you.

But you are here.

Is it yours?

I can't understand that you
are you.

(A x) Re..ってなに？

僕は知らない。分からない。理解できない。

君は知ってる？ 解らない？ 理解ってなに？

4行。

まるで意味が分からない。

まるで意味が解らない。。

まるで意味が判らない。。

まるで%#”！&Uのようだ。

これはいつまでつづく？
行き止まりをさがして。

エンジンを壊して。

タイヤを奪って。

。。。。。。。。。。

、、、、、、、、、、

。。。。。。。。。。

意味を探せ。

見つけろ。

奪え。

そこに必ず。

「Aア」

結局僕のことなんてわからない。

君のことなんてわからない。

そもそも。

「Aア」

何がある。

何にある。

何とある。

「Aア」

入れ替えて。

意味は代わるのか。

しかし。

「ああ」

「嗚呼」

「亜阿」

「蛙吾」

「意味なんて存在しない」

「ならばお前に意味はないのか」

「ああ、ないね」

「それは実に意味深長だ」

Do I have meaning?

Did I have meaning?

Have I had ever meaning?

No.

ああああああああ

ああああああああ

ああああああああ

ああああああああ

AAAAAAAAAAAAAAAA

AAAAAAAAAAAAA

AAAAAAAAAAAAA

AAAAAAAAAAAAA

意味を見つけることができるなら、

意味を感じ取れるなら、

意味を聴き取れるなら、

意味に君は、惚れるだろう。

現在進行形。
過去進行形。
未来進行形。
永遠進行形 A

既。

婚。

x。

x。

詩・唄・歌・唱・謡・謳・詠……。
スタートの5秒前にゴール。
ゴールの5秒後にスタート。
同一矛盾。

T D Q O

E E え？

R R R う？

w っわっわ w w w w | ？

どどどき k j h k j ？

！ ” # \$ % & ’ () || } — | ？ > < { } * + ~ }
えーびーしー。
でいーいーえふ。
じーえいちあい。

ととつとつとつととつととつととつととつと
おおおおおおおおおおおお
ぽおぽおぽおぽおぽおぽお
ぽぽおぽっぽおぽぽぽおぽ
y

Why?

Tell me!

What is it!?

Why?

Sorry.

I'm sorry.

Sorry.

I'm sorry.

BLACK.

NO.

WHITE.

NO.

時間切れ。

ぶー！

なんて音はしない。

ただ、FINISH。

そこに意味があるのなら。

その意味を壊してやる。

そしてこの世から意味を消してやる。

意味は要らない。

A
ア A
ア A
ア A
ア A

意味を見つけて。

潰す。

壊す。

作り、消す。

描いて、書く。

創って、作る。

潰して、壊す。

そこにはなんの、意味がある。

Thank you.

What?

Thank you.

No. No, no. No, thanks.

Everything is mine.

So you are mine.

So world is mine.

So "No" and "Yes" are also n

ot yours.

But.

But, but.

But, but, but.

I love everything.

そこにはなんの
意味が……、

しかし、

俺は。

うん。

アリガトウ。

なんて。

ただの文字だけど。

Aア（後書き）

73 作目「Aア」

「空の唱」が完成いたしましたので（予約投稿により、表面上の完成は明日）、息抜きに過去作品。

USBに入ってたやつ。

記録によると、2年前の作品。
僕にしては 熱情的な作風で
2年前のこのとき、一体僕に何があったのかなーて思いますが。

ストレスたまってたのかな？

いや、知らんけど。

2年前とか、絶賛中二病（殴

面白いですね。相変わらず。

自分の過去作をこうやって鑑賞するって。

では。

Who are you?

Red love, where are you from?

How long your life is.

Blue love, when will you die?

How long your life is.

Red and Blue are different, but

love and love are the same.

Perhaps Red and Blue are all

the same.

When you saw me, you looked at
me if you were dead.

Reddish love, when would you

go out?

Pale love, how old are you?

You just like me, don't you?

I hate love but I like color

s.

Oh, sorry. I wrote a wrong wor

d, 'color'. It means 'color'.

Love are colorful. I like it.

As you know, love is always lo

ve.

As you know, former loves don't

exist everywhere.

Oh, sorry. But here is a ex-lo

ve.

I t' s o u r s . S o , i t' s l o v e .
A s y o u k n o w , o u r l o v e i s a l s o
l o v e .

L o v e s a r e b e i n g b o r n i n t o a o
r a n a t t e m p e d s u i d e , p r e s i d e n
t , h e r o a n d m o r e .

D i d y o u m a k e
o r c r e a t e t h e l o v e ?

I t h i n k y
o u w i l l a n s w e r , " N o , I d i d n' t ."
B u t t h

i s i s n o t s o . I k n o w .

O f c o u r s e , I k n o w .

Y o u a r e .

Who are you? (後書き)

74 作目 「who are you?」

投稿の数時間後に修正を施しました。

夜花

人はなぜ

花を植えるの 育てるの 嗜むの？

この季節になると

花見にデジカメを持って

人はなぜ

雨を鬱陶ぶるの 晴れに動くの

この季節になっても

雨で 花見は中止

梅が嚙矢だこやし

それなのに 桜は

人はなぜ

夜に眠るの 月が照らしてるのに

夜の桜も

綺麗なのに 見ないの？

人はどうして

時に流れるの 梅は見ないの？

夜の桜は

写真に写りにくい

桜は後嗣だこやし

そうだから 梅は

夜のお花は

とても綺麗で

でも 昼の桜も

とっても 綺麗だ

桜は散りゆく

命尽きるように

でも 散るためには

まずは 咲かないといけないんだよ

花は講師^{こうし}だ

いつも何かを教えてくれる

そんな夜花に――私になるんです

夜花（後書き）

75 作目「夜花」よばな

花は枯れる

花は散る

ですが、その前に、まず咲かないと。

これは人に対しても言えることです。

失敗するには、まず挑まないといけませんよね。

何もしなければ、成功以前に、失敗さえ出来ません。

では。

友にこれを感謝する

情けは人のためならず
だから おせっかいは報われる
だから ありがた迷惑は殺される

友よこれを感謝する
それはおっせかいでもありがた迷惑でもなくて
願いに耳を傾けた イスラエルの民でもなくて
だから 「友」に 感謝する

情けは人のためならず
情けをかけることは人のためにならない
そんな意味だと誤認する誰か 間違ってる誰か
おかしくたって 伝わりゃいい

友は力を私に貸した
貸し賃を求むることもなく 紙の浪費を叱りながら
今日は本当に助かった

命の囀りが 時計を動かす
ところであのファイル どうすればいいだろう
とりあえず今は とっておこうか

情けは人のためならず

淋漓たる鮮血が 今日もどこかで地面に落ちる
それでも今日は “ありがとう”

友にこれ感謝する

ただこれだけ感謝する 諺を信じ

私は恩を 他人に渡そう

友にこれ感謝する（後書き）

76 作目 「友にこれ感謝する」

警察官

テラスの植木鉢 ベンチの氷

沈む月 たこ焼きの味

タコの足は8本 綺麗に歌おう

全力で歩こう この空の片隅に

昇る太陽 止んだ雨

ロンドンロード ユダヤ人

曇りのち雨 そののち黄色

腫れるほっぺた ひとさじの嘘

地下鉄の水着屋 カメラマンとモデル

たこ焼きを食べる ベンチでコーラ

ぬるいお湯 甘いお茶

坂の上のカフェテリア 溢れる涙

これでカノジョと 苦いキス

焼きたてのタコ 苦しいナイフ

タコの足は8本 クレームの嵐

タコの足は8本 嘘の歌

タコの足は16本 二杯だったら

タコの足は800杯 百杯なら

シャイに謝意述べ ちよつとの子猫

ロンドンルーズ 滝修行

今日も私は 平和です

警察官（後書き）

77 作目 「警察官」

☆????☆　　（素晴らしき人生）

人生は続く　　気持ち悪い
花束貰った　　気持ち悪い
極彩色だ　　気持ち悪い
かわいい後輩　　気持ち悪い
頬を赤らめて　　気持ち悪い
卒業しちゃった　　気持ち悪い
前からずっと　　気持ち悪い
好きでした　　気持ち悪い
おめでとうございます　　気持ち悪い
先輩と同じ　　気持ち悪い
学校を目指します　　気持ち悪い
だからそれまで　　気持ち悪い
待っててくれませんか　　気持ち悪い
いいよ　　気持ち悪い
いや　　気持ち悪い
今からでも　　気持ち悪い
付き合ってもいいんだよ　　気持ち悪い
いやいやいや　　気持ち悪い
冗談です　　気持ち悪い
これ……　　気持ち悪い
罰ゲームです　　気持ち悪い
あら勘違い　　気持ち悪い
自意識過剰　　気持ち悪い
入学しちゃった　　気持ち悪い

☆?..?..?..? ☆ 素晴らしき人生 (後書き)

78 作目 「☆?..?..?..? ☆ 素晴らしき人生」

手をつなごう

忌み嫌いあって 殺しあってもいい
嘆き苦しみ 人生をやめたつていい
でもその前に 手をつなごう

南は南を主張する 北は北を謳歌する

そうなるのも 仕方ない

みんな国に生まれたから みんな国に住んでいるから

戦争が止まないのも 殺人が消えないのも
みんな‘自分’を持っているから
みんな必死に生きているから

雨はいつになったら止むのだろう
雨はみんなに鬱陶しがられても
みんなのために 土をうるおす

雨を嫌っても 雨は降る
雨を好いても 雨は止む
それは人にも言えること

人を嫌ったつていい 人を憎んだつていい
破壊も殺人も戦争も 理由があるなら仕方ない
だからその前に 手をつなごう

手をつなごう(後書き)

79 作目 「手をつなごう」

なん

Today, feel free to...

どうしても 記憶は消えない
傷跡を塞いでも 流血を舐めても
沈んでく 脳は死なない

シロップを舐めて パンをかじって
頬を赤らめても 死に青ざめても
沈んでく 君はどこに

But, you are always going to...

走ればいいじゃん どこまでも
歩けばいいじゃん つかれたら
止まればいいんだ 血が出たら

薬は苦い だから飲まないよ
煙草は臭い だから吸わないよ
ツナメルトおいしいよ 体に悪いけど

ラ ラ ラララ それは
君の歌声と 紅茶
ケーキを少々 砂糖代わりに

コーヒーは嫌いです 色々邪魔だから
英語は難しいです 英語人じゃないから
君はいつになったら 死んでくれるのでしょうか

なん（後書き）

80 作目「なん」

アチサ（前書き）

文字化けではありません（笑）。

アチサ

アマサカソツツズオチミク
アララリラウフルリラライ

イアゲノオニミカウエロス
ウレイカウサイラユイラルイ

エカヅオイクアラウイミク
エツタモウサエヂアヌトウエトユ

アドウヌボヨチコトウエロス
ウレイキネヌツレイコムチ

イルゼアソニミコモロク
ウレイケチソスサレトウサ

ウオイコメダムチオムチ
ウクヅタワツアララルルル

イニラマイギイツハウエロス
ウロムツオニキリウヒラウ

オニミコチヒアタワウエロス
ウクヅタグオイキラルユイラルイ

エイオナマシマカウエロス
ウレイカウイサイラルユイラルユ

アチサ（後書き）

81 作目「アチサ」

前書きで述べた内容は嘘ではありません。
これ、ちよつと変わった読み方をしたら意味が分かります。

まあ、

どっかの外国語をカタカナで表記したり、
日本語だけど斜めに読もーぜだったり、
声に出して読んで、それを録音して、逆再生したり、

読み方は教えませんので、

お暇な方は、いろいろお試しあれ。

では。

やさしさ

この空でみんなつながってるなんて どうせ嘘に決まってる

空に浮かぶ白い雲

白い雲がつくる黒い影

黒い影が語る光の存在

空のない世界に 光はあるの？

この光だって どうせ嘘に決まってる

光がないと私たちは 何もできないみたい

光に縛られているなんて きっと夢に決まってる

アメリカでも

イギリスでも

シンガポールでも

テールランドでも

ルーマニアでも

おんなじ空が見えているけど

だからといって どこも同じ地上なんて 絶対に嘘に決まってる

月から眺めた地球だって 青く輝いているはずで

火星が紅く見えるのが 地球の大気のせいならば

空のない世界に 紅い液体はなかったんだ

手をつなごうだなんて どうせ偽善に決まってる

光に操られた私たちは 目で見ないと分からないんだ
握りしめた拳と掌を 感じとらないと分からないんだ

アヤカリも

イサカイも

シガラミも

テサグリも

ルスバンも

子供じゃなくなつて そこに光があるんだよ

光があるから影ができて 影があつたら光もあつて

空を泳ぐ白い雲が 黒い光を連れてきて

星の色をした 目覚まし時計が鳴り出して

今朝も私は 夢から脱するのです

やさしさ（後書き）

82 作目「やさしさ」

久々の更新。

僕は誰かをアイシテル。

ただ――

世界的有名バンド結成の瞬間

ねえアンタ 覚えてるかしら
わたしはアンタに殺されかけたの
ピックをもって訴えさせてね
私の曲を さあ Listen!

極限にまで弦を張って

はちきれそうな音を出して
ヘビーでロックでダークにお願い
ギターもおまけに Here you are!

何よアンタは 遠慮はご無用
お引取りなんてお願いしません
音を上げて帰さない

正座でもして Reflect!

さあそろそろ 懺悔のお時間
ひざまずいて 歌をつくりなさい
今の気持ちを すべて移すの
さあこれを持って Be GOD!

世界的有名バンド結成の瞬間（後書き）

83 作目 「世界的有名バンド結成の瞬間」

ん

ねえこの馬鹿みたいな

人生を明るくできない？

ねえ教えてよ

人生の解答用紙は どこにあるの？

あなたに出会ってしまった

それが答えと違っていても

後悔したりはしないように

言葉を拾い集めて詩うの

あなたに出会わずと前から

間違った道を進んでいたとしても

詩が教えてくれるから

きつとそれでいいから

何もかも全てが間違いだとしても

人生はふたつもいらないの

解答用紙には最高の詩を

0点の成績を

あなたに出会うことができた

きつとそれでいいの

満点でなくても人生は人生だから

ねえ人生を暗くできない？

ん(後書き)

84 作目「ん」

レストラン

勇気を持って 頑なに行きましょう

みんなの希望を紡ぎたい

幸せのレシピ 知らずにいたら損ですよ
いらっしゃいませ！ 何名様ですか？

綺麗な厨房 私とハーモニー

幸せの料理 幸せの味

隠し味に絶望を少々

スパイス効いた 幸せのハーモニー

包丁はいらない 鍋もいらない

火なんて使いません ガス代節約

ステージでファンタジー みんなで

レシピ通りには させません

幸せのレシピ 甘やかしすぎ

お客様は神様だから

不幸があつたら幸せ大きくなるんです
すごく美味しい 幸せドキドキ

勇気を持って 希望を晒し味

ワクワクルクル 私と厨房

無我夢中に一生懸命 現実という名の幸せを
お待ちどうさま！ 召し上がれ

レストラン（後書き）

85 作目 「レストラン」

S. K.
(前書き)

先輩、あなたにこれを捧げます。こんな拙いものでよろしければ、どうぞ受け取ってください。あなたの成功を祈ります。

S.
K.

ちらっ ちららっ!?

進路が決まるまで――我慢します

銀色の神様 頑張ってる!

すごいなあ これが受験生

星が瞬くシルバーハッピー

ラストの一年 ワン・トゥー・スリー!

先輩よ 応援です

すごいな― 夢が詰まってる

銀賞? ノンノン

2位? いえいえ!

銀は金より硬いんですよ たぶんですけど

1位よりすごい 何位でしょうか

これが受験生ですよ 世界が応援してますよ

もう何言えばいいか分かんないけど すごいんですよ
世界中が味方です もうこれ事実どうにもならない

あなたは神です 銀なんです!

え? 死神?

神が死ぬくらい輝く銀!?

えーとですねー それでもみんな応援してますよ
当たり前じゃん 神様も応援してるって

進路決めないと 未来もルート

一夜一夜に人見ごろ　そうなんですよ
47番目だそうですよ　A gってこれ方程式ですかね
てなわけで　神様おやすみなさい！　おはよう

S. K. (後書き)

86 作目「S. K.」

そこ！ 散文すぎるとか言わな！い！

命

人を殺すことはできても
命を壊すことはできない
人類が減びてしまっても
命は滅したりしないこと

地獄というものがあるんだし
天国ってのができたんだし

人を殺すことはできても
命を壊すことはできない
人類が減びてしまっても
命は滅したりしないこと

地獄というものがあるんだし
天国ってのができたんだし

人を殺すことはできても
命を壊すことはできない
人類が減びてしまっても
命は滅したりしないこと

地獄というものがあるんだし
天国ってのができたんだし

三人集えば文殊の知恵さ
三回唱えて答えを待とう

ああ、そうそれだけなのに。

命（後書き）

87 作目「命」

それだけのウタ

人が死んだら人は死ぬ
ただ、それだけのこと

人が死んでも魂は死なない
天国も地獄も知らないけれど
人が死んだら動かなくなるけど
もともと見えないのなら動いていないのなら
魂は死なない

ただ、それだけのこと

人が死んでも命は尽きない
来世とか前世とか意味不明だけど
人生や歴史が循環するのは嫌だけど
そもそも命が不変であるのなら
だったら命が続くんでしようと
ただ、それだけのこと

人が死んでも時は終わらない
時は動きはしないけど
時は続きもしないけど
戻ったり進んだり停まったり
人と関係はないのかもしれない
ただ、それだけのこと

人が死んだら人は往ぬる
だから生きる人のために
人が生きるといっただけで人は生きていられるし

人が死んだらもうそれっきりだから
魂も命も時もひとつしかないのだから
ただ、それだけのなし。

それだけのウタ（後書き）

88 作目 「それだけのウタ」

日記

そこにどんな「何」があったって
それが「何」に変わりはないでしょう
きっとみんなその「何」のことだけ
考えて生きていくのでしょう

ラクに生きる道を探すより
ラクに生きる意味を見つけるなら
それはそれは難しくなって
「何」はなんなのだろう

人を嫌う動物がいても
それを知るすべはきつとなくて
人はそれを愛してさ

「何」をきつと壊していくのだろ
どこに行っても行き止まりなら
どこに行っても逃げ切れるなら
でも歩き走れるのだと

「何」は無音であざむき嗤う

何をしたら「何」になるのなら
人と動物区別がつくけど
何をしたら「何」が無いのなら
人も動物もいないのでしょう

そこにどんな「何」があってもね
それがどんな「何」を生み出しても
だからきつと「何」はありまして
だからずつと「何」をオモウノデス

日記（後書き）

89 作目「日記」

A Walk In The Park

We should tear up the devil's contract for the benefit of our charge.

He was born again with great industry. It's the genuine affection which made effort.

We said to him, "What's your favorite book, food, area, though, human and trash?"

He answered and said, "I can't understand and why you didn't add a question mark."

Bud it's bad enough to be suspicious of him.

We dumped him.

We may be killed by a devil named 'Destiny'.

Destiny is preparing a meal for us but it tastes awful.

Nevertheless, we eat them.

Some of us, people call them, pregnant woman, who ate devil's food mustn't feed babies from now on.

If they do that, they will be sinned.

Sinning a sin was been corrup-
 tion. He said that it's a mat-
 ter of course.
 Bud it's bad enough to be sus-
 picious of him.
 We dumped him.
 We will be to able to be play-
 ed-out because of his tear.
 Never can I. Never can you. N-
 ever can we.
 But who that we call it, he i-
 s bad' may be able to create e-
 ternal.
 We wait it, almost all the
 rnal's and worlds were created
 by whose emotion.
 Destiny is not God but God is
 not our father.
 Yes, he is.
 So, we dumped him.

A Walk In The P (後書き)

90 作目「A Walk In The P」

これを含め、あと10作ですね。

長かったです。

ああ、あと。

もうお気づきでしょうが、この詩集は永遠に終わらないようです。それでも「u17's poems」に終わりはあります。なにせ、第1編なんですからね。

第1編が終わらないと、2編にいきませんから。

終わりとは、始まりである。

終わりとは、初まりである。

では。最後までお付き合いくださいませ。

PPPH

墮落するのなら ippそのこと見事に
神にまで畏怖を強いれ サタンを凌駕して
枝もたたわに実り腐る 赤い果物は
蛇を飲み込んでしまえば むしろ善行に

処刑するのなら ippそのこと見事に
鎖線が延々と続くとき 参賀の意図は無用だと
もう嫌気がさした 蛇行する淫行のように
体を売るなら心売れよ 生きるためにも

自殺するのなら ippそのこと見事に
社会を大いに巻き込んで サタンを喜ばせ
邂逅は神に寄託して 遺沢の罪を恵め
暗闇はただの理想 死ねばいいさ

昇華するのなら ippそのこと堂々と
嗣子の涙を酌み 荒波を乗り越えて
危篤を噛み 神に土下座しろ
土産に蛇を 口に銜えて

PPPH(後書き)

91 作目「PPPH」

につき

なぜだか

なんにも

できなくなつて

すべきことは

たくさんあつて

したいことも

たくさんあつて

でも

まったく

できなくて

あたまのなかでは

わかつてゐるのに

なぜだか

なんにも

できなくて

きらいなことも

すきなことも

もうどうでもよくなつちやつて

どうでもいいことだけが

かさばっている

どうせ

いきるきりよくが
ないっていったら
だったらしねって
きこえてきちゃって
でも
しぬきりよくだって
もう
ぜんぜん
のこってなくて

いきていなくて
しんでもないって
だから
そういうことで
うれしいに
あいたくなつて
でも
まったく
できなくて
いきていて

おもいだしたら
つみなんて
どこにもなくて
おもいだせるのに
なんで
なにもできなくて
おもいだせたなら

ひとつだけなら
することが
あって

うれしくも
かなしくも
ないのだけど
ずっとずっと
おもいだして
おもいだして
おもいだして
おもいだして
できなくなって

そんなわたしが
いっしゅうかんだって
ずっと
すわりこんでいて
でんわがなるのも
わからなくて
ねむれなくて
ずっと
おきていて
どうでもよくて

そうしたら

あのひとが
わたしのいえに
ふほうしんにゆう
かわったわたしを
みて
だきしめてくれた
つよく
つよく
そんな夢をみた

につき（後書き）

92作目「につき」

90作目「A Walk In The P」のあとがきで、「これを含め、あと10作」とか書いてありますけど、含めずに、の間違いでした。

ごめんなさい、u17は算数ができないのです。

57作目の「Blue Sky」あとがきにて、「拙い短編」とありますけど、掌編、の間違いです。

ごめんなさい、u17は日本語がわからないのです。

本作、「につき」ですが、

89作目「日記」とリンクしてお考えになってほうがいいかもしれません。

とか言いつつ、完全に切り離れたほうがいいかもしれません。

まあ、どうでもいいのですけどね。

につきは日記。につきはニッ期。
では。

醜臭

きみとわたしが出会う前から

きつと答えは既に決まってしまうて

きみとわたしがあの時に出会えたのは

きつと全部それは 運命 だったんだ

あの時働いていたわたしには

きみはただのお客様で

いらっしゃいまして

定型句を口ずさむだけだった

失くしちゃいけないこと

忘れちゃいけないこと

終わっちゃいけないこと

壊しちゃいけないもの

どうすることもできずに

泣き喚いてて

それを感じたきみの

やさしすぎる笑顔が

どうすることもできずに

泣き喚いてて

それを感じたわたしは

やさしすぎる笑顔で

きみとわたしが出会うずっと前から

きっと何もかも答えは決まってしまうて
あのときみがわたしに声かけたのは
きつとずっと前から決まってしまうて

昔昔それは御伽噺

今は昔きつとそれはわたしのエゴ
だってだってわたし人なんかじゃなくて
きみを呪い殺す 悪霊 なんだから

醜臭（後書き）

93 作目「醜臭」

愛情表現

大泉門に指をぶっ指す！

大泉門に指をぶっ指す！！

新生児の人生ぶっ潰す

未来の大人をぶっ殺す

大泉門に指をぶっ指す

大泉門に指をぶっ指す

新生児の未来をぶっ潰す

どっかの明日をぶっ壊す

あひゃーひゃ

せっかくの 未来の幸福を なにするんだって

だったらよ 考えたのかよ 赤ん坊の恨み文句

未来の幸福つつても

どーせそのぶん不幸が来るから

だったら生きてても

意味ねえだろ

んな愚論吐くなっつってんだよ？

未来なんていらねえんだ

こういう奴がいつから

新生児

可愛そうな新生児
殺してあげるよ

ねっ新生児

死ね死ね死ね死

まてまてまてまてだ
いーやまたない

待たないし またとない

可愛そうだと思わねえのか
どうせ生きても
幸福と不幸しかない世界

大泉門にペンをぶっ刺す
大泉門にペンをぶっ刺す
明日の命をペンでぶっ壊す
10年後をペンでぶっ潰す

俺の愛情をぶっ放す

俺の表現をぶっ示す

俺の表現をぶっしねす

俺の表現をぶっ死ねす

怖い
けど

ごめん

しかたないのなら
しかたないのだから

ロールなんて要らない

スク

人生ってそんなもんだ

いつ死ぬかなんて 分からない

この新生児にとっては それは今

ただそれだけだ

それが――人生だ

愛情表現（後書き）

94 作目「愛情表現」

絶望

絶望をください

林檎の木には林檎の実になる

そんな当然を幸福というのなら

当然でないことを不幸というのだろう

当然でないとは奇蹟ということで

奇蹟を不幸というのなら

不幸を奇蹟というのなら

どうか私に 絶望をください

絶望をください

林檎の木には林檎の実になる

そんな当然を堕蛇が促すのなら

当然であることを不幸というのだろう

当然でないとは祝福ということで

祝福を愛情というのなら

愛情を祝福というのなら

どうか私に 絶望をください

絶望（後書き）

95 作目「絶望」

。すでトスヤジ字002

1 足す1は1である (前書き)

1 2 作目 「1と1を足したとき、なぜ2になるのか」の続きです。

1足す1は1である

円周率に終わりが無いのなら
世界にだって終わりは無いんだろうな

1や2の数にアイデアがあるのなら
世界だって壊せずに残るんだろうな

1足す1は2である
彼は負けてしまった

敗者の言葉は残らない

「1足す1は1である」

それを必死に説いた彼は
処刑台につれてかれ
首をはねられ
腕をはがされた

円周率に終わりが無いせいで
世界はいつになっても終われない

1や2の数にアイデアがあるせいで
世界は壊れず残ったままだ

1足す1は2である
根底から決まっている どうしようもない事実
勝者の言葉しか残らない

「1足す1は1である」
そんなの言ってもただの変人
偏見の視線を浴びる

縁を断たれて
愛を捨てられる

でも

ちよつと立ち止まってみれば

この世が根底から間違っていたとしたら
円周率が割り切れてしまうとしたら

1足す1が――2でなかったとしたら

ヒルベルトの証明も

プラトンの理念だって

何もかも根っから間違っていたら

1足す1が1だったとしたら

いいや

ありえない

だけど

そうだ 間違っていたってことにしてしまえばいいんだ
ホントかどうかは関係ない

勝者の意見が正義に変わる

人類の認めた正義が世界に変わる

この世界を全部敵に廻して

僕は闘う 彼の弟子として

疑問を押し潰さん強大な世界よ

お前をこれより悪と為す

1
足す1は 1
である

1足す1は1である（後書き）

96作目「1足す1は1である」

いやー。数学太子、お久しぶりです。

「数」と「アイデア」はあんまり近くないかなーとか思いつつ。

u17's poemsも、架橋に入ってきましたね。

90作目から、一連の流れになってたりするのもかもしれませんが。

1足す1がどうであっても、

人って生きていけるんでしょうね。

不思議です。

ではでは。

※アイデア…ものごとの真の姿

人々が「線」や「図形」などを認識できる原因

プラトン…古代ギリシアの、アイデア論を説いた哲学者。

ヒルベルト…ドイツの数学者。

この詩では、「ヒルベルトの23の問題」の第2

問題から。

ピリオドの日

赤い 赤い糸を切って
間違えて指も切り落とす
そんな人間になりたい
きつと慰めてくれる

青空を飾る桜は
いつのまにか緑色
どこへ行つたの通学路
いつもぐるぐると周る

ふわふわとパレードに
文芸部だっておめかしして
まだ 暗くなつてない
だけど happy night

ショートショートは記憶の中に
地球温暖化は過ぎていく
新しい笑顔が生まれていく
そんなそんなお話

赤い 赤い糸を切って
間違えて指も切り落とす
そんな人間になりたい
きつと慰めてくれる

薬指から続く

見えない赤い糸がある

あなたの親指と接がるのなら
早くそれを切らないと

きつと「愛してる」なんて

永遠に言えないけれど

きつと「スキだった」なら

今は言えるかもしれない

だけどあなたは来ない

仲間の集うパレードに

もう暗くなったんだ

でもね good night

赤い 赤い糸を切って

間違えて指も切り落とす

そんな人間になりたい

きつと慰めてくれる

赤い 赤い糸を切って

間違えて指も切り落とす

そんな人間になりたい

きつと慰めてくれる

ピリオドの日（後書き）

97 作目 「ピリオドの日」

拝啓 小松左京様へ

今は五月じゃありやしません
ちよいと空想いたします

私は比喩が下手くそなので
率直に申し上げますけど
言葉にできやしないのです

五月の晴れた日に

私は先生を知りました
どうしようもなく おかしくて
どうしようもなく かなしくて
どうやったって心が動いてしまいます

さて 今後の話をしましょうか
死後の世界とは

先生における何だったのでしょうか
トーマス・エジソンが探し求めていた死後との通信を
先生も果たせずにお行きになるのでしょうか

ひとつ文句を言わせてください
これを書くために私は
自分の詩をひとつ捨てました
捨てるしかないじゃないですか
先生が大好きだから

言いたいことはたくさんあるかもしれませんが
オポチュニズムだって気持ちのいいもんですから
どうせ言葉になりやしませんから

粗末なものですがお勘弁を
どうぞ末永く——お幸せに

敬具

拝啓 小松左京様へ（後書き）

98作目というふうには、拙作「いつかの林檎の木の下で」に収めさせていただきます。

「拝啓 小松左京様へ」

今日知りました、小松左京先生が逝去されたことを。

2011年7月26日、80歳。

ここで何か、格好良いこと言えたらいいんですけどね、なんにも言えません。

小松左京先生をご存知ない人がいらっしやいましたら、

えーっと、『日本沈没』を書いた人って言えばお分かりになるでしょうかね。

そういうことで。

自分

こんなに素晴らしいものが

「奇跡」ってたったの二文字で済んでしまうのなら
奇跡ってそんなに凄くないんだって
そう思えるようになってしまった

こんなに果てしないものが

「愛」ってたったの一文字で終わってしまうのなら
愛ってその程度のものだって
そう思えるようになってしまった

こんなに哀れみ深いものが

「憎悪」ってたったの二文字で済んでしまうのなら
憎悪ってそんなに哀れじゃないんだって
そう思えるようになってしまった

こんなに重くのしかかるものが

「罪」ってたったの一文字で終わってしまうのなら
罪ってその程度のものだって
罪を犯しても何とも思わなくなった

自分（後書き）

99 作目「自分」

なんで言葉はあるのかな

私が神様だったら、「言葉」なんて創らなかった
愛しても憎んでも、善を働いても罪を犯しても……
それがちっぽけだって分かってしまった今は、もうどうでもいい
んだ

私が神様だったら、こんな「神様」は創らなかった。

そんなことを言っても、きつと仕方ないんだね

神様だって、どうしようもなかったんだね

神様だってその程度だから

とやかく言うつもりはないから

神様を慰めてあげるような人は、

どうしても少ないのだけど

言葉が大切だなんて

そんなこと分らない

だけど、言葉がないと神様にも通じないから

今日も「自分」で言葉を使うよ

文にはかならずピリオドが符くように（前書き）

1 作目「ピリオドのあとにまた文が続くように」の続きではありません。
せん。

文にはかならずピリオドが符くように

・ 星が煌くこの季節

サークル仲間と煌き具合を見にいった
仲間の一人が「いつもと同じね」って呟いた
その言葉で 僕は思い出したんだ
もう どうでもいいことを

「いつもと同じ青空と」

こんな星空を見た後に
そんなこと言えるわけもない
闇に散りばめられた宝石

あのときと同じ空だとは思えない

文にはかならずピリオドが符くように
この想いはとくに終わっていたんだ
そういえば今日は同窓会だったけど
今はサークルのほうが大事だから
君に会うのが 面倒臭いから

君のことなんてどうでもいい

赤い糸はきつと他の人に

通学路は変わるだろうけど

学校もきつと消えるから

文にはかならずピリオドが符くように、

文にはかならずピリオドが符くように（後書き）

100 作目 「文にはかならずピリオドが符くように」

u17's poems

古くて新しい笑顔を創るんだ

闇と共に輝いて 光と共にホコリ被って

物凄く愛しているなら

……

ロマンチックは好き ロマンチストは嫌い

何が語呂合わせだ

恥ずかしくて 他人のフリーだけど

Your dream won't come true

ビニール袋は

もう もう死にそう

汚れを守る

勝者の意見により

世界がひとつだったなら

痛い

オーケー オーケー

I hate you

雨の模様

そんなこと

共に笑う そのときのために

アクション起こさん

さっさとうせろ

雨が降る

遠い 遠い 遠くの国で

さあ 奇跡を創ろうよ

そう思うのは マニユアルのせい？

常に隠れている地球が羨ましくて

All is all

脳のない人は人 心のない人は人 命のない人は人
燃えないごみだよ

国は結局地名なわけで 統一しても世界は広いわけで
病気だよ

many miracles

それだけで

LOCK on ROCK

馬鹿な道理も一緒に消えて

人をモノとして考えました

ほらもしも怪我をして痛いんなら

今のために生きなきゃだめだよ

無邪気に無邪気に

そうさそうさそうさそうさ だってだってだってだてめがね

哭を知った猫はきつと鬨の渦中

必ず使うときが来るから

You are NEET

シアワセのお時間

だから何だと

庭化粧

見放される優しさに 愛情の軽さを知る

進化する 神様の本

楽しいんなら 何でもいい

ビョーキなんてそもそも無いんじゃない？

傀儡が降る夜は 月が真っ黒 お日様が消えた夜

敵と看做して即座に攻撃 実仲間

人は生きる 生きるから人

Not in Education, Employment

Training

国境がなくなって 結局困るのは

摩訶不思議な未来

終われない物語は どうして始まらないの

疎 どうしてもどうしてもどうしても きっとさねそうなんだっ
て死んで 宥

殺す気かい？ ねえ神様

ちを終わります

食べられないカップラーメンなんて ただの不良品

綺麗で異例で 気味悪い

何を見ていたって それでいい

心に響く 台詞をPLEASE!

泣き笑います

後ろにも 道があっただ

最新兵器 その名を「愛情」とかいつて

へへーんだ 親指元気だよ

薬を探しに

祝福してあげよう

経 桜が咲いたよ音の無い悲壮な野原 音が無くても生き物は生

き物だよ 蒲

何かご不満のようですね

まるで%#!&Uのようだ

Did you make or create the love?
ve?

散るためには まずは 咲かないと

情けは人のためならず

タコの足は8本 嘘の歌

好きでした

破壊も殺人も戦争も 理由があるなら仕方ない

いつになったら 死んでくれるのでしょうか

明日

テールランドでも

さあそろそろ 懺悔のお時間

解答用紙には最高の詩を 0点の成績を

不幸があつたら幸せ大きくなるんです

世界中が味方です もうこれ事実どうにもならない

三人集えば文殊の知恵さ 三回唱えて答えを待とう

人が死んだら人は死ぬ

ラクに生きる道を探すより ラクに生きる意味を見つける

W e d u m p e d

墮落するのなら いっそのこと見事に

でも

呪い殺す 悪霊 なんだから

大泉門に指をぶっ指す

林檎の木には林檎の実になる

何もかも根っから間違っていた

そんな人間になりたい

大好きだから

罪を犯しても何とも思わなくなった

・

u17's poems (後書き)

いつかの林檎の木の下で 第1編 終末のうた。

俗に言う101作目「u17's poems」

もうお気づきの方で一杯でしょうが、あえて言っておきます。

こんな風に——文字が集まれば詩になるんです。

どんな文字でもいい。

意味不明でいい。

この詩を見てください。

意味不明だったでしょ？

でも、それでも詩になるんです。

詩に限った話ではありませんが、これは詩集ですので。

特に言うことはありません。

言いたいことはありませんが、言いたい気分です。

言うことはありますが、口を動かしていたい気分です。

あるでしょ？ 皆様にも。

でも、長居はいたしません。

時間は大事に扱わないと。

あ、ひとつ言いたいことを思い出しました。

言いたいことというよりも、言うべきことですかね。

「u17's poems」内の「For you, but why?」「1と1を足したとき、なぜ2になるのか」「一般的な収束なる悲しみの淵に光あれ。」「white day」の4作は、オンラインゲーム及び小説・イラスト投稿サイト『テンミリオン』から転載したものです。u17's 名義で。

i n t r o d u c t i o n — e n d i n g

カラオケってなんかいいですね
ストレス発散できますね

でもね考えてみてください
僕は気持ちいいですが
他の人を不快にしてるだけなんです
だってこんなに下手ですもんね

だからカラオケは嫌いです
でもね君が好きなんです

恋愛ってなんかいいですね
それはそれは切ないけれど
でもねでもねこの僕は
恋愛ってなんかいいですね

でも僕 歌はすつごく下手ですから
この気持ちを伝えようとしたら最後
君を不快のどん底なんです

だから僕は詠います
歌いませんけど詠いましょう

それできっとハッピーポエム
これがきつとラブソング

どうぞ一緒に
うたいませんか

i n.

まず断っておきますけど

別に「愛してる」ってわけじゃないんです

君のことが「大好き」なんです

だってこれは恋なんです

これを愛にするための

そのための恋なんです

そういうと誤解されそうですけど

別に「愛してない」ってわけでもないんです

だから「大好き」なんです

だってほら

「愛してる」も「大好き」も

どっちも「love」になるわけで

これはloveを経由した

小さく大きな恋なんです

君のことが大好きです

だからもうすぐ言うんです

きっとその日が来るんです

「I love you」って、そんな日が

top vision

僕はカズです

C u z I w i s h i t w e r e w i t h o u t h o
p e .

ごめんね 何もできやしない
こんな無力な人間

全力で駆け出したとしても

そっちには到底たどり着けないから
乗り物に乗ればいいのかと思えば
お金がない

僕はカズです

C u z I w i s h i t w e r e w i t h o u t h o
p e .

物理的にしか考えられないバカ

B a k a u s e バカ失せ いや B e c a u s e o f B A K A

でも物理を無視することはできないし

鳥にでもなりましょうか

鷹になって撃ち落とされましょうか

鶉になって保護されましょうか

僕はカズです

カズ I w i s h i t w e r e w i t h o u t h o
p e .

ねえ聞いてください

でも僕 書きますよ？

y o r u
|

犯してしまった朝があつて
逃げ出したい昼を過ごして
君を想う夜があるけれど

だからといって日が出てる間
君のこと考えていないわけではなくて
というよりも自分でも困るくらい想っていて
だったら僕にとって
夜っていつなんだろうなって

空が黒いときを夜というのなら
夜はずっと昔に消えていて
星が瞬くときを夜というのなら
この世はずっと夜だらけ

吸血鬼のように真紅をなぞってもいいけれど
血を吸うほどの鬼でもなくて
月の光を嗜むのなら
星に睨まれる人になろうと

コウモリでも雇えばいいのかって
日が沈みかけたら出てくるけれど
そしたらどうも寝つきが悪くて
棺桶探しに昼夜逆転

空が白いときを朝というのなら
空が青いときを昼というのなら

雨が降ったそのときは
朝でも昼でも夜でもなくて

どうのこうのと語ってきても
結局言いたいことはたったのひとつで
何度も言ったら薄れてしまいそうだけど
何度唱えれば会えるのだろうか
今日も君を想うけど

犯してしまいそうになる朝があつて
逃がしてやりたくなる昼があつて
君に想われたくなる夜があるけれど

time—emit

ふいに脳裏に名前が浮かんで
それを口にして泣きそうになる
そんな「とき」はありますか
そんな「時間」はありますか？

「どんなに離れていようとも」
そんな 強がりを唄にする
明日も 生活していけるように
自分自身をそう抱きしめて

君に出会えてよかった
それが今届かなくても
明日か来年かの未来に
きつと「時間」が教えてくれる

ふいに脳裏で君が笑って
だけどなぜだか泣きそうになる
そんな「時間」はありますか
そんな「とき」はいつですか？

「きっとまた会えますように」
そうやって 弱いところ晒すけど
明日も 生活していけるように
自分自身を引っ込めるけど

君に出会えて本当によかった
それが届く「とき」がくるまで
限られた「時間」を過ごすから
今日はここで おやすみなさい

8 S E 2 W

これは勘違いというものだろうけど
それは非常識なものなのかもしれないけれど
あの言葉は告白という

これは勘違いというものだろうけど
それは非常識極まりない妄想なのだけど
あの言葉にはどんな意味が

ただの享楽にすぎないのなら
それでも今は構わないけど
当時の僕にしてみりゃそれは

享受というよりも享寿だとして
享寿というよりも享愛だとして
享愛というよりも享恋だとして

これは勘違いというものだから
それは非常識な当惑なのだから
あの言葉を忘れられずにいるけど

これは勘違いというものだから
それは非常識な吸血なのだから
あの言葉を告白に仕立て上げた

まあ正直どうでもいい
どうせ告白の言葉なら

僕の口が言うんだし

Reply

夢は大きくなくちや
目標は高くなくちや

そんな爆弾抱えていつも
いつもいつもいつも

いつもいつもいつもいつも
いつもいつもいつも

そうやって取り乱すけど

Now here we are
There is my who know as frie
nd

But but also sounds and looks
mine
Now where we are

夢は大きくなくちや
目標は高くなくちや

きつとみんな爆弾持って
いつもいつも

いつもいつもいつも
いつもいつも

そうやって狂っていくから

Now — New — Known

???

???

???

君? ?????

なんだかまとまりがないけれど

とりあえずどうでもいいから

詩を詠えばいいから

そうやっていつも

君を困らせるけど

**h
f
r
t**

夜じゃなくても星はいつでも
気付かれないまま輝いている
君がいなくても僕は毎日
気付かれないまま詠っている

朝になるたび星はいつでも
そっと姿をくらし隠れる
君に会うたび僕は毎日
気付いてほしいと心で叫ぶ

そうであってほしいけど
実状はこれ以下　これ未満
君に会いたい　君に会えない
そう詠っても　変わってくれない

物理は嫌いだ
試験も難しいし
ずいぶん遠くに住んでいるんだね
いつになったら会えるんだろう

どれほど遠くに離れていても
星は輝く　見てほしいから
だから僕は詠いつづけよう
僕はここだよ　会いに行くまで

games

音ゲーまじ無理 むずすぎる

なにあの動き 指サバキ

バチも無理あれ 腕サバキ

君のプレイは見たことないけど

僕の想像を凌駕できるのかい？

全て範疇内といえば嘘になるけれど

君の素晴らしさは夢の中だったから

別に衝撃というわけではなかったんだ

一目惚れではないからね

音ゲーまじ無理 楽しすぎ

カラオケとは違って 歌う必要もないし

でもあれだ 僕ってば下手すぎ

僕は別に 君がゲーム上手いとは思ってない

この目でまだ見ていないからね

だからそう 今度会ったらゲーセンにでも

僕はしないけど スポンサーみたいに

僕を驚かせてみなよ

群集の最前列で 君のプレイを

生まれる前から決まっていたような そんな運命はいらないんだ
別にだからといって取り上げなくてもいいけど

生まれる後になってやっと決まるような そんな人生もいら
んだ

別にだからといって取り上げなくてもいいけど

リズムカルな唄にのせて

運命も人生も決めるものじゃなくて

自分で決めるものでもなくて

強いて言うなら 僕だから

アップテンポの曲を選んで

運命も人生も流してしまえばいいけど

そのときは君も一緒に

僕と一緒に流れてしまおうよ

生まれる前からデタラメなんだ

そう誓うのはイヤだから

生まれる後ではシアワセなんだ

そう担うのはイヤだから

君ならどうする？

僕のすべては君ではないけれど

ちよつとぐらい歌つてもいいかもしれないなーって
そうやって甘えてしまいそうになるから
たまには運命と人生に閉じこもるけど

マトモなほうが異様になるように

ホントのことを忘れてしまえば

そのとき君がいたらどうなるかなーって
君のことをよく知らないけど

蚊が囁いても聞こえないけど

僕は囁くこともできないのかなーって
リズムカルにアップテンポを選ぶから
運命も人生も僕なんだ

意味は分からなくても大丈夫

僕も実は分かってないから

君に唄を送るだけ

ただそのためだから

君ならどうする？

o r c h e s t r a

オーケストラを聴きにいったんだけど

どうも僕には合わないようで

いわゆる戦になっていた

睡魔という名の敵とのイクサ

そんな中でも思っていたのが

ありきたりな話だけど

頭を占めていたとか過大な表現はしないけど

つまり君のこと

君はどうだろうとか

やっぱり君も眠くなるんじゃないんだろうとかとか

だったらそのとき君は横にいて

僕の肩に預けてくれたらいいのになって

オーケストラといえば聴くだけでなく

観るという鑑賞法もあるのだけど

指揮者がなかなかアクティビティだったけど

やっぱり睡魔が襲ってきて

そんな中でも思っていたのが

ありきたりかもしれないけど

思っているというよりも想っていたのだけど

つまり君のこと

君はどうだろうとか

躍動的な演奏は素晴らしかったけど
やっぱり君には敵わないなって
だから君のことが

radical

ラジカルに

生きてみよう

と思って

それを社会が

許すだろうか

それでもね

生きてみたい

と思って

社会がもしも

そうであつても

「そもそも」と

ラジカル並べ

ロジカルに

つまらないのは

よしにしよう

アシタこそ

そう言いつつも

慰める

君に会えない

いつもが過ぎて

過ぎてまた

アシタが来ない

泣きたくて

泣けないけれど

泣きたくなつて

ラジカルに

生きてみようと

思つても

僕が社会を

言い訳にして

いくらでも

もうどうしても

時間ない

そんな気がして

また夢の中

笑つてて

そう言う前に

笑つてて

僕も笑おう

そう思うけど

ラジカルに

ロジカル捨てて

生きたくて

でもそれなんか

違ふみたいで

そもそもね

言うまでもなく

僕たちは

物理的にね

離れていてさ

そのために

また会うために

僕が行く

そのためにだけに

生きたくなつて

Q—k e t s u —k i

吸血鬼

それがなんだか言っておこうか

それはつまり

それはつまり

おそらくうまく説明できないだろうけど

別に難しくもなんともないから聞いてほしいけど

吸血鬼

それは血を吸う鬼

血が何を意味するのか

それを理解してくれればそれでいいけれど

それが面倒だから

それが分からなくとも伝わるだろうから

いや伝わんないかもしれないけれど

だからそういうことで

血が何を指すのかは

君に会ってからのお楽しみ

だからそれを吸う鬼を

僕は特別に「吸血鬼」

別に珍しくもないけどね

僕の周りに現れたから

自己紹介

別に知る必要はないんじゃないのかって

書いてみてから思うけど

まあ別にいいか

つまりこれを「吸血鬼」

つまりこれを吸血鬼

君と歩いたあの日の夜に

どうしても眠れない僕は

その夜に僕は

吸血鬼になった

これは比喻だけど

これで伝わるんじゃないのかな

伝わらなくても別にいいけど

閑話休題

I need you

???.???.???.???.???.???.???.???.
???.???.???.???.???.???.???.???.
「I love you」???.???.???.???.
君? ???.???.???.
???.???.???.???.???.???.???.???.
???.???.???.???.???.???.???.???.
「I need you」???.???.???.
???.???.

でもこんなアテツケはやっぱいらなない気がして

だからもうちょっとだけ我俣言うと

「I love you」という「I rob you」

発音は似ているからそういうことでいいんでしょ

「愛してる」んじゃないくて

君をもうすぐ「奪う」から

君が「大好き」だから

君を「奪い」に行くからと

結局ただの恋文だけど

そういえば最近

君への唄しか書いていない気がするけど

読者の皆さんもお楽しみいただけますように

いや君も読者だけど

読者は君ではないからさ

そういうことだから

I
n
e
d
y
o
u

a s a s

弱いところみせるのは恥ずかしいけど

でも実は全部をみてほしくて

そうやって空回りしているうちに

何も魅せられなくなるけど

a sとして

そういえば何も分からないけど

昔 詠った詩の中に

a sというものがあるのだけど

それは純情で

それは傲慢で

それは初恋で

それはどうしても 甘ったるい唄なのだけど

強いところみせるのは面倒臭いけど

でも実は弱いところも分かってほしくて

そうやって空回りしているうちに

何も魅せられなくなるけど

a sとして

純情として傲慢として初恋として

いや 別にこれは初恋ではないのだけど

a sというものがあるのだけど

だから青春で

だから願望で
だから恋愛で
だからどうしても

みせられない唄なのけど

emotion

“衝動的になれたらいいのに”

そう僕が呟いても

でもいつがそれなのか分からなくて

タイミングというものがあるから

どうしても emotion は不慣れだから

悪いことをするには勇気がいる

善いことをするにも勇気がいる

emotion がどちらに属するのか 僕はまだ知らないけれど
だから今日も何もできないけど

今頃だけど僕の唄には

「けど」や「だから」で埋まってて

はつきりとした文末が

あまりに少ない気がする

“衝動的になれたらいいのに”

タイミングを見計らったり

今伝えたらダメだろうという推量だったり

ちゃんと笑えてるのか不明だったり

どうも頭が良くなったけど

ああ また「けど」で終わったから
今度は「から」で終わったから
つまりそこから見直すべきかもと
今日も何もできないけど

e m o t i o n を拾うには勇気がいる
e m o t i o n を捨てるにも勇気がいる
だから昨日も

中途半端に e m o t i o n を置いておくけど

e s p e r a n z a

朝の占いが僕に言うには

今日は君との急接近！

台風が荒れ狂うような天気ではないけれど
だから今日君に、言いたいことがあるんだ

“ 冬休みになったら、そっちに行くけど会えるかな ”

どれほど遠くに離れていても

最近の技術に頼ってみれば 意外と大丈夫で

新幹線で3時間かかるところに 3秒もかからないメールを送った

台風はもうとっくに過ぎたけど

だからなのかもしれないけれど

君に急接近

返信が来た

“ 大丈夫、なんだ会いたいの？ ”

心臓の音がした

何かが込み上げてきた

端的に言って

とても嬉しかった

S i O

傾斜を越えて
深夜を伝った
汗だくの月と
ほんのりの星

惨たらしい石
そんな表現で
いいのか否か
分らず登る

転びそうな坂
どうにか進み
障害を避けて
君に会おうか

秋の夜山には
夏と違う熱気
進んで想おう
傾斜を越えて

話の見えないストーリーは
唐突に終わったりはしない
なぜならそのストーリーは
話を見えないよう隠してる

どうしてもおかしいのなら
Nコードをあてにして進み
今日も予約投稿で詩を詠い
君に見えないように続ける

さあ時間になるまでもっと
すぐには終わらない物語を
すぐには終われない物語を
君を想って綴ってみようか

yomitino gailoju

As boy you will know a special friend,
I must have to be able to be strong of all of you.

As boy you can believe in,
I must have to have need what you like.

As I know,
I haven't understood your voice yet.
You too.

A roadside tree in black and black night,
which I had already known that they won't bear fruit,
I'll go back if you can.

And I'll go back if you can't.

Here we will...

As boy you will recognize a important way,

I must have to be able to
 de you to the white life.
 s. As boy you can hug,
 I must have to sing this poem
 As I know,
 They won't affect you.
 But you can well.
 A road side tree in black and
 black night,
 which I had already left,
 I'll be coming again.
 And I'll be coming again.
 There we will...

hyoscyamine

目を瞑ったら何も見えなくなるのは分かっているのに
眠りにつくとき僕は
どうしても目を瞑ってしまうんだ

目を瞑ったら何も見えなくなるはずなのに
眠りにつくと僕には
いろんな君が見えるんだ

それは笑顔の君
それは真剣な君
それは綺麗な君
それは可憐な君
それは素人の君
それは達人の君
それは大切な君
それは、夢の中の偽者の君

目を瞑っても君が見えるから
目を瞑らないと君が見えないから
今日も眠りにつこうとするけど

目を開けたまま君が見えていた
その時を思い出しながら
その時を想い出しながら
いや違うんだ
その時の君は“本当”の君で

たまにメールを投げ合う君で
目を瞑って見える君は
君だけど君じゃないんだね
それでも君なのだけど

本当の君

それは いつも の君

それは いつか の君

それは、夢の外の本者の君

y

なんで why y そうなんだ
なんで why y そうなんだ

y y y y y y y y y y y y y y y y

こんなこんな未来を

こんなこんな明日を

意地悪な神様と一緒に

なんで why y そうなんだ
なんで why y そうなんだ

意味不明だなんて言わせない
意味を決めるのは君だから
だってこれは y だから

吸血鬼もびっくりの原理
それはやっぱり、恋でした

神様の悪戯

それはほんの出来心でした

さあ y という名の意味を

記号ではなくて

吸血鬼には分からない

神様にだけ分かるような

そんな y を

君に捧げる

r a l l e n t a n d o

この恋が緩やかになるのなら

それは坂道が楽になる

つまり 君に近づけたということなのでしょう

こうやって毎日詠いつづけないといけないのは

この狭い部屋が狭くても部屋であるのと同じように

急な坂道が緩やかになっても坂道だからなのでしょう

坂道が急になるときっていうのは

それは坂道が険しくなる

つまり 君に近づけたということなのでしょう

だけどこれは r a l l e n t a n d o

だんだん緩やかになるように

でもね それはあくまで地形なんです

ああこれは音楽

でもね残念 僕は音ゲーが下手なんです
知ってるでしょ？

緩やかにも急にも 僕にはできない

ただ詠うだけ ただ坂に行くだけ

ただ君に近づくだけ

double overhead

なんで君でないといけないの
そんな馬鹿な質問を受けた気がする
誰から受けたのかは言えないけれど
別に疚しいことなんてないし
いやいや僕にそんな話きませんし
だから気がするだけなのかもしれないけど

本当に馬鹿らしい質問だったから
もしかしてコラなのかもしれないって
軽く受け流すところだったのだけど
もしこの質問を

君自身に訊かれたのならどうしようかと
そんなことはないと思うけど

予行練習がてら
答えてみたんだ

“君でないのなら、一体君は誰なんだい？”

“君しかないない、僕には君しか”

“次の人なんていらない、君がいるから”

“次の恋は存在しないんだ、君との恋は愛に変わる”

“君との想い出が光っているから”

“君がいるから恋してるんだ”

いろいろ考えてみたんだけど

そうだな

答えるとしたら

五文字以内で纏めなさいってことになったら

聞きたがりだけど長い話が不得意な君に言うのなら

“君が好き”って

それだけ言えればいいと思う

ああ今ひさびさに「好き」って言ったかもしれない

言い過ぎたら薄くなるとか

そんな戯言を妄想して

だけどそれもいいんだ

もう一度言うよ “君が好き”

これからもそんなにたくさんは言わない

もしかしたらもう言わない

君に会うまでは

君にまた会うまでは

そんなこと言っておきながら

明日には言っているのかもしれないけどね

さながら吸血鬼のように

まるでふたつの オーバーヘッド

flower

ふたつの山がそこにあつたとして
そのふたつが向かい合っていたとします

ふたつの山は
近づくことも離れることもできなくて
お互いに
愛し合ったり憎み合ったりしています

でも残念なことに
残酷なことに
山に咲く花は
愛していても憎んでいても
関係なく咲かないといけないのです

それは僕の命のように

ふたりの人がここにいたとして
そのふたりが信じ合っていたとします

ふたりの人は
近づいたり離れたりを繰り返して
お互いに
メールを送り合っています

でも嬉しいことに
いえ 残酷なことに
ひとにある命は
会えたとしてもそうでなくとも
関係なくここにはないといけないのです

それは山の花のように

idle

あたたかい声 日差しに乗って
まだ見ぬ廃墟へ
草木を撫でて ドアに微笑み
誰もいないと唄う

宇宙の果てと ダンボールの隅
全く違うと思っても
どちらにも誰もいない
声の届く場所

一本の細い針と 金で出来た太い棍棒
廃墟に並べられた道具は
草々に巻かれ 枯れた微笑み
みんな消えたと唄う

あたたかい声 日差しを越えて
まだ見ぬ人間へと
木々を伝い 窓を拭き
君に会いたいと想う

都会の真ん中と 最前列席
少し似てると思っても
どちらにいいのか 分からない
声の消える場所

二本の折れた針と 土で出来た丸い棍棒

廃墟にない道具は
人々に虐げられ 咲いた絶望
みんな誰だと唄う

f o r b i d d e n f o r g i v i n g

都から星は見えるのか

八年前と変わりがないのなら

きっと都に星はない

きっと都に夜はない

星はいつでも輝いている

生きている間 いつだって

生きた証のない都

そこで生きている 君は誰？

たとえば津山の奥のほうとか

たとえば鳥取の大山だとか

君は見たことあるのかな

誰かや僕の 人生の証を

都の空には何が見えるのか

八年前と変わりがないのなら

たぶん都に君がいる

僕は都に今はいない

星はいつでも輝いている

死んでからも少し 長居して

余裕な振る舞いのない都

そこで生きてる 君は君

たとえば江原の雪嶽山とか
たとえば富士山の樹海だとか
都の空にはなにか
星でない何かが輝いている

都の君とは会えるのか
八年前と変わりが無いのなら
いいや

その頃の君を 僕は知らない

星はいつでも輝いている

朝の星 昼の星 冬の星

星のない都からでも見える星

それを見ている 君も僕も

たとえば潮の満ち引きとか

たとえば狼男の叫ぶものとか

空がつながっているって言えるのは
つまりそれは月のこと

g l o w g r o w

輝きは増す 絶頂の瞬間まで

衰えていく 頂を越えた先まで

あの星が言うように

この恋に 頂 があるのなら

だけどそれは

信じたくなくても もう分かっていることだから

考えすぎて 前に進めなくなるよりも

あの星のように 進むまでもないのは だから

光は育つ 頂を越えても

前に進まなくても 時は待ってくれない

自分は動いていないのに 時は待ってくれない

星光のように

輝きが育つ 時が動くまで

衰えたとしても それでも君を好きでいたいから

あの星に言われたとおり

君のほうが離れるのかもしれない

それでも 今 届いてる光は 今 のものではない

そう信じないと やってらんない

考えるのをやめたりしないように たまには振り返ろう

あの星のように 戻るまでもないのだから ちよっと振り返るだけ

光は増す 頂を越えて

時が動いても 頂は消えたりしない……だなんてことはない

時が動いたら 動いてしまったなら

そのとき星は流れる 空をつなぐ星が流れる

**n
o
r**

罨にかかるか かからないか
牙にかかるか かからないか
君にかかるか かからないか

だけど全部何もかも

それは今も n o r の世界

吸血鬼が蔓延る世界の中で

今は落ち着いて

吸血鬼でない僕は唄う

君をみつけたら

たぶんまた吸血鬼になる

悔しくて叫んだ

会いたくて泣きそうになった

僕はいつになったら

吸血鬼になれるのだろう

窓から迷い込む黒い風は

廃墟からやってきた声と知り合い

これから遠く 遠くへ旅にいくって

ふたりして出て行ったけど

だけど全部何もかも

それはきつと n o r の唄

それはきつと どちらでもない 物語

会えるのか 会えないのかではなくて
どちらにしたって君が好きだから

s i n ;

罪を犯すつもりなんてなかった

罪だとも思わなかった

恋は盲目というけれど

それ以前に……

自分の言葉を話すのならば

罪なんてその程度だと思ったのだけど

恋をする前から 僕はいつの間にか

両目を失っていたんだ

人類はいつからか

気付いていたはずなのに

気付けたはずなのに

神よ 僕は罪ですね

墮落した脳みそを掻き回して

そうして味噌汁が出来上がる

それを飲ませてあげるから

ほら 僕と……俺と来い

君は、お前は俺のものだ

強引だとかそういうものじゃない

神様は見放したりしない

そう俺は信じてる

だから――

だけど サタンにそんなものはない
さあ俺に抱かれて
盲目の罪を

deep, deep, deep

墮落の渦中にいることも知らないで
目が見えなくても人は生きていられるから
だから人は盲目に慣れてしまった

ああ神よ

いいやあんたに用はない
用があるのは、そう サタン

墮落するのなら、いつそのこと見事に
だからサタン お前を殺す
生死とは関係なく お前を殺す

神様 あなたの力はいらない
あなたは俺を見放さない
……そう信じてる

剣か弓か銃か書か
なんでもいい なくたっていい
さあサタン 俺と戦い

限ができてしまっても
睡眠不足に違いはないのなら
いいややっぱりなんでもいい

盲目の罪を

俺は許したりはしない

分からない

out.

冬になればお前に会いに行く

メルだかなんだか

罪深い人類が生み出した機械でもう約束した

だが俺は馬鹿だった

だったら冬まで寝て待つてればいいのかというと

そんな妄言はいつまでも妄言だったのだ

衝動的にならなくてはならない

ついに時は動いたのだ

吸血鬼は凍結して

リズムに合わせた娯楽には腐敗を強いり

夜道に立つ街路樹を切り倒す

そんな衝動に駆られねばならない

カスでクズで略してカズの

因果応報の原因となる思考のまま

ただお前をいつまでも大切に思い

俺は戦おう

時が動いても存外月は流れずに

黙ることもせず光を浴びせかけてくる

痛々しい微笑みと共に

そして神無月は過ぎた

o u t . (後書き)

“ L Y C t P . S + , g i n O c t o b e r i s e n d .

束縛

守らねばならないこと

ある者はそれを「束縛」と呼んだ

守る

それは所有

それは親愛

それは墮落

それは恋

たとえば神が人類を創造したのは

絶対的な孤独と

虚無の「束縛」に泣いたから

あたたかい声と黒い風が

光の妖精と闇の妖精になっていた

彼らの案内を頼り

俺は「束縛」されていく

仲良しの妖精

息をとめる意味を見せて

すぐに呼吸を取り戻して

絶対的な「束縛」の中へと

神のいない場所はない

だから全てに「束縛」があり

だから全ては守りゆかれる

そこにサタンはいるのか

漆黒

だんだんと論理は崩れる
論拠を述べても治らずに
概念を取り繕ってもなお
漆黒が綺麗だということ
それさえも崩れゆく論理

誘い誘われ夢路は消えた
自分の道さえ選べないが
概念を取り払ってもなお
漆黒が醜く艶やかに在り
それはいつ崩れゆくのか

黒い想いを抱いてもなお
罪を犯した事実が消えず
業火に燃やされてもなお
消滅はせずに虚無を償う
ただ振り向くことなかれ

黒く想い続けてはならず
悪行は善行で取り繕えば
存外難しい問題ではない
滅亡など存在せず繁栄し
頂の消えた今衰微は無い

崩れた論理はどこへ行く
天国も地獄も受け付けず
地上天国にゴミ箱がある
そこに捨てられてもなお
どこでそれは燃えるのか

ここに六つの道が見える
どこへ行くのも自由だが
選んだのなら道は消える
選ばないことが解である
さて俺は漆黒で何をする

純白

純白は好かない

それは童話とは違い

世間知らずで罪人を見たことが無く

死肉を口に入れたこともない

純白は育つという

だが漆黒も育つのだ

ならば純白の長所は何だ

無に色はないのだが

光はそれを「黒」といい

闇はそれを「白」といった

賛歌を嘆くには

まず賛歌を知らねばならない

聖書を破るには

まず聖書を所有せねばならない

純白にはそれが出来ない

触れただけで穢れてしまうのなら

恋愛など知るべきでは無かった

そう嘆くまでも無く

純白に愛はない

純白にあるのは ただの命と

偽りの神だけである

本当の神なら……

そう期待を抱いてはいけない

それはまるで人形のように

そう それは純白

潔白の対となるもの

そこにサタンは在るのか

糾問

黒い大地を覆う白い大気も
白い大洋を囲う黒い大寒も
漆黒に詰問はない
永久の糾問の中で

染み付いた穢れの外で
黒くも白くもなく
灰にもなりきれていない不燃物を
牢獄に溜め込んで放置する

たわわに実る木枝の林檎
霜月に大地が纏う白い水も
下る者は首を失う
黒い穴に白は無い

氷の国に
氷柱の生る永久の慈悲と
生きる希望とやらを
極寒に詰め込んで放置する

林檎の餞別は暗闇の中で
善行を働いた者だけに与える
赤い林檎も腐った林檎も
永久の糾問の内で

薄汚れた拷問を外に

道具に実る命の奈落
福縁の救助は業火に壊死
寝具に白い糾問の放置

鐐音

剣を漱ぎ

双子の道理は早速逃ぐ

遑に免れ 道を捨て

見ゆる明日に保身を向けて

星に恐々昨日を祈らん

哀悼の台詞は剣に刻み

精励の道理を誤植と謳い

義理の銘菓を恋と受け止め

西欧に反して我が道を行かん

争議を醸す坩堝の内は

河豚の毒にて犯される

攔かされし筆は折り

矍鑠の唄を詠わん

念墮の夢は朝と昼間に

端唄に纏うる無限の対を

過去の血を洗い流し

長歌と反歌を引き裂きながら

暇を願い 筆を握り

不確かな明日を信じ

無力の星に昨日を唱えよう

殺めた命は洗うことなく

英雄の殺害を当然と言い

二月一四日に誤解するまでもなく

この国の文化は異色である

差別も偏見も入り混じった文化の中で

関係のない罪に乱れる

どうせ終わらないのだからと筆を折り

古くから伝わる当然を唄う

日の出る間に星の悪口を

永遠に終わらない 白と黒の対極を

そんな人間に 俺はなれるのだろうか

豪語

何をするにも責任が伴うとするならば

何もしないことはどうなるのだろうか

何もしないことをしているのか

本当に何もしていないのか

それを「無」に置き換えるとするならば

たとえばそこに

「無」があるのか

それとも本当に何も無いのか

そんな豪語を唱えるまでもなく

適当にそこらじゅうの神にでも任せておけば

ことは済むものを

神はなぜだかどこにでもいる

ならば「無」にも神はいて

だとすると「無」とは何なのだろう

何をするにも結果が生じるのなら

何もしないことはどうなるのだろうか

何もしないことが原因で結果が生じたり

本当の結果とは何だろう

過程

探すという過程は必要なのか

サタンは見つからない

隠れてでもいるように

盲目には見えないようになっていくのか

神がどこにでもいるのなら

対極の存在はどこにもいないのかもしれない

だが果たしてサタンは神の対極なのか

サタンも神の産物ではないのか

知識のないことこそが

過程を切り抜ける手段だとするならば

だとしたら俺はまさしく

バイブルの葉だ

探すことに意味はあるのか

墮落の末路を辿るにしても

その根源を断つことの

どこが墮落なのだろう

指南

神を探す哲学者のことは
何度も何度も聞いてきた
何度も何度も聞かされてきた

サタンに打ち勝つ勝利者のことは
何度も何度も目にしてきた
盲目に焼き付けてきた

だけど
サタンを探す者を
俺は知らない

サタンは勝手にやってくるものだ
誘惑して 溺れさせるものだ
探すまでもなく 現れるものだ

なら
なぜ俺は探しているのだろう

それはだから
実はそれがサタンではなくて
いいやサタンなのだけど

今までの 哲学者や勝利者の謳ってきたサタンではなくて

悪魔でも堕天使でもなくて
それを恋というのなら

俺はどうしたらいい

代替

指から逃げていった風船のように

風や空気に身を委ねて

天に昇ろうとさえせずに

誰も知らないところで萎んでいた

どれほど傾いても直線を貫くシーソーのように

がたんごとんと堕ちては堕ちて

がたんごとんと昇りは昇り

誰もいないとき止まっていた

目を瞑ると案外怖いブランコのように

背中を押されるまでもなく揺れて

一回転だなんて無謀なことと思わずに

誰にも虚しく漕がれていた

誰もいない夢の中で

自分を子供と代替して

あの頃はとても楽しかった公園を

意味もなく歩き回っていた

寂寥

変わっていく話は

空想にも現実にも当てはまる

届かない声は

空想でも現実でも聞こえない

誰もいない公園のように

冗談に嫉妬し

傍観を哀惜するまでもなく

まだ逃げることはできる

誰もいないのだから

雪が降り出しても会うことなく

迫り寄る恋を突き放せるのなら

変わっていく話は 空想でも現実でもなく

話でさえなくなるのなら

公園の遊具が誰でもなく

声も届かない無機質な

撤去される夢ならば

寂寥の中

さあ 時間がない

誰もいないところで

ひとりだけの 決断を

信実

草稿が世に出ないように

初恋が実ることはない

それを知らなかったあの頃の俺は
それでもなお 虚夢きよむに生きていた

それが終わって時間が経って

お前に会った夏の日

草稿が世に出ないように

俺は原稿を練り返したとでもいうのか

それは嫌だ

虚夢きよむが実現することはなく

実現するのはいつも 推敲した後

それを今は知っているから

それでもなお 実現ねがいはこんなにも難しい

推敲した後にはまだ校正があるように

実現ねがいが叶ったとしても

いいやでもそのためにも

俺はお前に言わなくてはならないんだ

鍊成

鍊成の星が見えない

この公園には咲かないのか

鍊成の花が匂わない

この公園では煌かないのか

鍊成の恋なんてない

この公園には俺ひとりだけ

漆黒と純白が

仲良く手をつないで

見せびらかすように公園の
外の歩道を伝っていた

“ サタンは向こうだよ

会いにいこうよ

そんなところで座ってないで
そんな空耳がして”

鍊成の星が見えない

そもそも今は昼だった

鍊成の花が匂わない

もうすぐ冬が来るのだった

鍊成の想いが動く

公園を抜け出して
そこに見えるのは
そこで匂うのは

サタンかお前か
はたまた恋か

対面

意外にもそこは
明るかった

サタンの空間といえば
陰湿で多湿で
暗黒で墮落していて
汚いものだと思っていたのに

いいやだから
やはりこれは
サタンではなかったのだろう

なんでもかんでも
サタンに責任を押し付けるのではなく
こうやってたまには冤罪も
免罪もあるのだから

だとしてもそれが罪であることに違いがないように
されどそれは「罪」だから
ほんの小さな罪だから

そこで待っていたのは
待っていたのかどうかではなく
ただそこにいた存在は
意外にも「無」ではなく
実際に「有」として在って

意外にも明るかった

宣言

“恋とはつまり、盲目だ”

明るい存在は俺に言う

恋煩わしくて眠れない夜を吸血鬼と呼ぶように

“現代の人類は、ほとんど盲目だ”

明るい存在は言う

これはつまり みんな恋しているということではなく

人類はみな 何も見えていない

善悪の基準も分からない盲目なのだ

そう述べているように

“だがそれは罪ではなく”

罪であるはずの冤罪は実は罪ではなく

愚直な信実をもつのなら

真実を述べる力を持たずとも

神の声が聞こえないとしても

それが罪であるとは限らない

というわけではなく

“ただの大罪なのだ”

ただそれだけなのだ

“恋をする感性自体に罪はないが”

誰かちゃん是谁かくんを好き
そんな小学生に罪があるというわけではなく
その心に罪があるというわけではなく
その行動 いわば鼓動に罪がある

“恋に対する考え方、つまり罪にこそ罪があるのだ”

冤罪にも罪がある

それがなぜか

罪こそが罪だから

罪を免れて恋をしようという

その考えが罪だから

“罪を受け入れろ”

神がサタンをも許すように

“許せ”

もう洪水は起こらない

そして“罪”は俺の前から消えていった

俺の前ではなく

俺の中で しっかりと育んでいくのだ

決断

“お前” ってなんか響きがいいね

そういえば何ヶ月か前に実際に会ったとき

“お前” って呼んだと思う

強がりでもなんでもなくて

そうなんだよね

“俺” っていうのは不自然でもなんでもなくて

そんな君が好きだから

“俺” ってつまり そういうこと

弱がりでもなんでもなくて

きつとそういうことだから

もう決めた

罪を全身で受け止めて

ちよつと心が乱れててごめん

俺でも僕でも 違いはないだろう？

だってそういうことだから

会えるんだから

会えるんだから

君にきつと伝えるんだから

だってこういうことだから

霜が降りゆくこの月を半分も費やして

僕が考え付いたのは

結局変哲もないものだけど

それこそが だから

きつとこういうことだったんだ

さあ 後半を唄おうか

決断（後書き）

H
a
l
f

o
f

“ L
Y
C
t
P
.
S
±
g
”

i
s

e
n
d.

再開と再会

久しぶりに会えたから

ひとまず僕にご褒美

「抱きしめてもいい？」って

君にふざけて言うのです

強すぎる人は苦手

自分が守られてること知らない人が

君を守ったりするのかな

君に守られたりするのかな

心配したほど都は明るくなって

心配したほど人は多くなって

心配するほど君は冷たくなって

暗闇で光る月のように 僕に微笑んでくれたなら

久しぶりに会えたから

強すぎてても怖くない

むしろとても可愛いな

君を守る君と僕

久しぶりに会えたから

今日くらいは我儘で

僕は君を離さない

君は僕と離れない

そんな夢を見たのです

月忌と楽器

恋の力を出しぬきながら

遠い遠い 近い君を見つめよう

千載一遇とはこのことで

語り合う術を 僕たちは知っているのだから

その楽器が赤い体をしていたとして

その楽器が青い音を出したとしよう

きっとそれだけで合奏になっていて

それでも楽器はひとつなのに

きっと会えたなら また語り合おう

君の声が聴きたいな

君の声が聞こえるように

赤と青を混ぜて紫にしておくよ

恋の力をおし出しながら

いつか近い君と見つめよう

起承転結の結をとって

終わらない恋にしてしまおうか

語り合えない曲になったなら

その曲をうっすらと

紫に染めてしまえばいいのだから

ほら こんなふうに

搜索と創作

君はどこで　なにしてるんだろ
白い光　太陽眺めて

君はだれと　なにしてるんだろ
深い瞳　見つめたいだけ

近くないところで

無音の唄は言う

きつと会える　一緒にいられる
あした　あさって　雪が降る頃に

白い光　太陽にさえ

怖いものは　きつとあるんだろ

深い　深い　だれかの瞳で
僕は探す　どこかにいる君

創る　創る　激しい無音を
僕と君と　どこかのだれかに

あした　あした

音のない唄を

どこかのだれかの　僕と君に
白い光は　やがて沈む

あした　あした

近くない瞳

どこにでもある 想いのもとへ
白い光は やがて昇る

普通と不通

君に会いたい

ただそれだけなのに

きっと会えると思ってるけど

なんだか不安なんだ

君が会ってくれないんじゃないのかって

僕って

もしかして嫌われてるんじゃないのかって

それとも

どうでもいいんじゃないのかって

君に会いたいのに

君に会いたい

夜行バスの予約は

乗る日の一ヶ月前からだそうで

まだ日時も決まってるなくて

それは僕ひとりで決めていいものではなくて

もしかしたらそのせいで

君と会えなくなるかもしれない

でもはやく決めないで

結局おんなじことで

普通のこと

会いたいんだってこと

君に会いたい

このままじゃ

君はずっとずっと

不通の世界に入り浸って

そんなの自分の勝手なのに

なんでそれを嘆いたりするのか

でも分からなくてもなんだっていいから

君に会いたい

君に会いたい

落款と楽観

押印の必要はない

だって僕は作者というよりも

カラオケで唄を歌う 消費者なのだから

そう楽観的にならなくても

現実が逃げていったりはしないから

たまには羽を伸ばして

カラオケにでも行って 悲観の底に行けばいいのに

でもそういうわけにもいかなくて

カラオケには行かないと ずっと前に決めたから

でもそれも あのと看簡單に崩れてしまったけど

あれは例外ということだ やりなおし

落款の必然はない

だって僕はなにものでもなく

歌が物凄く下手な 僕なのだから

そう楽観的にならなくても

夢が消えることはいくらでもあるから

たまには羽を引っ込めて

誰もいないところで 唄うといいさ

月光と激高

月の光が届かない夜も

どこかに月がいること願って

ひとりひとりで空 眺めてたら

あ、流れ星

そんな夜が欲しい

流れ星とか言ってる前に

星が見えない そんなこの土地は

ネオン輝く 空 明るくして

僕も君も 少しは似ているね

だってだって 場所は全く違うのに

月の光は見えるのだけど

星の光が見えないからと

月に対して激高するのは

ちょっとおかしいなって

知らない君が知りたいよ

月に刻んだ僕の名前を

知らない君を知りたいよ

月光はネオンと劣らず

どちらにしたって光だけど

激高は場違いだから

ここもそこも

星が流れたりしないのなら

あ　今気付いたけど
時が動いたとき　月が流れなかったのは
流れ星が　ここにもそこにも
激高せずとも　なかったからなんだね
だから僕たちは

消暑と証書

恋の証書があつたなら

僕の気持ちを確かめながら

君の気持ちを知られるのに

でもそれは

つまり絶望の種というべきか

そもそも君に

恋することもできなかったんじゃないのかな

冬が近くなってきた

でも僕は暑さをしのいで
なぜ暑さなのかは

僕の中の

完全に間違っている方程式が表しているから
ここでは割愛ということ

恋の証書がなくてよかった
心の証書がなくてよかった

暑さをしのいで今日も僕は
君を想って

君の心が見えないからこそ 君を想って

サインはしないよ

印

頌徳と生得

立派なことをした覚えはないのに
評価されてしまうっていうのは
実は結構 苦痛になってて

自分が頑張ってることは
ただの趣味だと看做されて
僕が一生懸命になっていることを
周りは 受験の邪魔だと言うんだ

だけどあるとき 君は
僕の一生懸命を分かってくれて
自分もそうなんだってこと
似てないけど同じなんだって
教えてくれた

僕には仲間がいなかった
友達はたくさんいるけど
同じことに一生懸命になっている仲間が
僕には全くいなかったんだ

だけど君にはたくさん
いっぱい ippaiの仲間がいて
その中で切磋琢磨して
楽しそうに苦しそうに
一生懸命だったんだ

僕も君も 勇気付けられて
こんな人がいるんだって
お互い刺激し合って

立派なことした覚えはないけど
周りがそんなに期待してくれてるんなら
もっと頑張ればいいんだって
厳しいけど現実と向き合うんだ

受験戦争に不平を言うんじゃないで
ぎこちない自分を叱り付けて
それでもっと頑張って
倒れても倒れるだけだから
一生懸命になろう

答えはそこにはないけれど
生まれながらのその意味を
立派なことはしてないけれど
まわりは祝福してくれるから

僕は君と祝福しよう
生まれる前から決まってなんかなくて
生まれる後になってやっと決まったわけでもなくて
これは僕と君が決めた
一生懸命の物語なのだから

一生懸命にしてたんならば
あっけなく夢が終わったりしないから
徐々に 徐々に追いつけなくなっても
それでも頑張れるのだから

さあ 生まれながらのその意味を
立派なことだと褒めてあげて
僕は行く
きっと頑張れるのだから

僧上と線上

ラインの上に君がいて

僕みたいな人が

君を連れていってもいいのかって

悩んで悩んで

まだ悩んでるけど

どこまでも続く直線の上に

君は待っているように

でも動いていて

そんな屁理屈言う前に

どちらになるかの瀬戸際に

線のこっち側なら

線のそっち側なら

これから遠くまで行くのに

線を伝ったほうが楽じゃないかい？

そう逃げ道があるにはあるけど

遠くに行くにしても

近くに行くにしても

線がないといけないのかい？

でもね 決めても決めても

まだ決めたりないのだから

まず 手をつなごう

無煙と無縁

” “ There's no smoke without fire.

僕の好きな言葉

英語の辞書の カバーの一句

日本語でもこれと同義のものはあるけれど

僕が好きなのは カバーにあったこの句なんだ

” “ There's no smoke without fire.

星がなくても光はあるのに

無煙のそこには

燃え上がる熱情なんてなかった

無縁の夜空

” “ There's no smoke without fire.

星と星とのつながりが

見えないなぜなら煙はたたぬ

無縁を嘆いたりしないで

火のないところに星はあるのか

” “ There's no smoke without fire.

恋して火傷するくらいなら
恋して煙吸って死んでしまいたい
無縁の話

” “
T h e r e ' s n o s m o k e
w i t h o u t f i r e .
”

履行と利巧

利巧な君に言いたいよ

君が好き　ただそれだけ

なんでかな　君の夢　見ると

ただそれだけで

好きの再確認できるんだ

履行する

きつと決断を果たす僕は

その後になにをしたらいいのか

そうじゃなくて

ねえ　君のことが

ちよつと期待して絶望して唄って

君は利巧だから　ただそれだけで

なんにも分からなくなるのだけど

ただそれだけでは

諦められるわけなくて

履行する

時は勝手に進んでるし

夢に勝手に現れるけど

きつとその向こうには

笑ってる君のその顔が

言うよ　言うんだよ

いくら思考を巡らせても分からない

だったらアドリブでいいんでしょって
この唄だって大半アドリブなのだから
それくらいできるでしょって

履行する

碌々と陸々

どうせ なにもできない この僕の
どこを好きになるっていうのか
わけがわかんないけど

正常値が常軌を逸してたりするように
碌々から離れて生活しても
そしたら平凡な毎日が恋しくなって
結局 陸々 無意味になるけど

だったらなおのこと
無意味に生きてしまえばいいのかも
意味を見つけてしまうから しんどいわけで
君を好きになった意味 理由 目的 要素
そんなの全部ゴミ箱に捨てちゃって
そしたらなぜだか碌々 残って

もうなにも考えずに
君としっかり向き合って
君を僕の時間に空間に
引き込んで離さないで抱きしめちゃえばいいんだ
それが 陸々 僕の勘違いでも
勘違いもしないほど 考えなければいいじゃないか

節奏と節操

旋律の狭間

節奏の調子

君の節操を

主義を持ち続けるのは難しいけど

主義を持たないことも難しい

主義を知らないってのは異常なことで

主義を知ってるってことも尋常じゃない

節操を一度も崩さないで生きるのは

ほぼ不可能なことであって

誰にだって幼少時代が

誰にだって青春というものが

あるはずなんだから

生きてさえいれば

人生の節奏を

聴衆なんて皆無であるのに

それでも楽器を弾いて

誰かの月忌に指を立てるんだ

笑われたら笑い返す

泣かれたら笑い返す

なにしてもそんなことしてたら

嫌われるよって 誰かに言われても

笑って堪えたら

ホントに嫌われたみたいに

この手が節奏を作り上げるのなら
唄の力を信じて僕は

君の節操を崩してあげる

ザ テロリスト

煙が無いなら火を焚こう

縁がないなら会いに行く

それだけで別になんともないわけで

だったら早く そして速く

君に会いに行けばいいだけの話で

何度何度 唄ってきても

おんなじにはならなくて

履行とかしなくても

利巧なら気付いてくれるから

気付いてもらえないのなら

君はたぶんバカだから

だったら僕が

教えてあげればいいだけで

教えてあげるよ会ったとき

頌徳そのものを褒め称えて

本来の徳を置いてけぼりにしたならば

ごめんって一言だけ言って

誤解には慎重に嚴重に注意して確かめて

生得だからと開き直って

抱きしめればいい

人生の旋律
節奏の人生
君の人生に

さあ今日も唄っているよ
会えるのを願って

不十分な資料と共に

それは夜空の

なんと言えばいいか分からないくらい

月光の節操を

ずっと照らし続けるという節操を

崩してしまえばいいんだけど

そしたら大変 激高しちゃって

異色の地にいるわけではなくて

月の光はどこまでも 同じ色

っていうわけでも実はなくて

依頼したいんなら太陽がいるけど

夜の太陽は 嫌われるよ

主義を持ち続けてもいい

主義を持たなくてもいい

主義を知らなくてもいい

主義を知り続けてもいい

もうなにもかも包括して

唄を唄として世に出して

漆黒と純白は消えたけど

それを混ぜても灰色にはならないのだけど

難しいことが好きならば

夜にだって太陽はいるから
会えなくなったら君はいるから

暑さをしのぐことを消暑というけれど
そんな中でも 暑さをしのがないといけないくらい
生きないとやってらんないって分かってて

証書にサインをしなくとも
証書を持たないといけないのは
もしかしたらそこに
君がいるのかもしれないから

僭上が成功の道になるかもしれないし
その逆だってたくさんある
つまりそれは線上で
どちらにもいける状態

もう一度始めても
前から始まったことなんだから
端から見るとなんでもなくて
恋には途切れが必要で
途切れには一途が必然で
再会できるように再開したんじゃない
君が好きだから 唄ってるだけで
なにを言っても聞こえないくらい離れているから
だったらなにを言ってもバレないからって
どこの犯罪者だよって訊かれても
唄えばいいだけで

落款しなくても樂觀的になれるよ
だなんて知ってるからもういいよ

知ってることをまた言われるのは
体に心に堪えるものがあるようで
これが知り続けるっていうもので
ホントに難しいんだって分かって

普通にしてても常軌を逸してたりして

自分にとっては正常値なのに
平常であるのになんで

それは自分が不通だからで
でもそれもいいのかもしれないって
なんともなんとも知ったから

君に会いに行くよ

場合によっては搜索するよ

太陽の光も月の光も人工の光も

いやいや もしかしたら太陽も月も

もしかしたら人工かもしれないよ

確かめる術がないんじゃないよ

これは創作の話だから

主義を持ち続けないでいよう

主義を持たないことなんてないようにしよう

主義を知らないなんて言わないようにしよう

主義を知り続けないでいよう

節操が作り上げる節奏は

耳に心地よくとも悪くとも

それが唄であるのだから

異色と依頼

異色だって構わない

依頼だってへっちゃらさ

君がどんなにおかしな人でも

君が僕に押し付けたりしても

全部全部抱きしめて

アピールのつもりじゃないけれど

君に会うために 君に会いたくなつて

君が好きになった

異色だから好きなんだ

依頼だって大好きだ

君みたいな人に初めて出会った

僕みたいな普通を装った異色でも

気付いたか気付かなかったではなくてだから

僕だつてもしかしたら知らないのかもしれない

君が誰かの依頼だってこと

だから君に

一僕と君十

僕と君の名前

どちらかの名前の

一文字目と二文字目を入れ替えて
それをローマ字表記にしてみたら

不思議なことに とてもよく似ているんだ

違うのはたったの一文字

“ g ” がひとつ 僕のほうが多いだけなんだ

± g

名前は違うのに

人は違うのに

読み方が同じになるだなんて

不思議だね

読み方が同じでも

それぞれ異なる“過去”と“今”と“未来”があって
もしかしたら“意味”もあって

その違いが“ g ”に込められてるとは思えないけど

± g

僕と君の名前

一僕と君十 (後書き)

“LYCtP. S±g in November is end.”

e n d i n g — i n t r o d u c t i o n

Long time no see Long time
O see おひさしぶりです

ずいぶんと待ちわびていましたよ 首を長くして
貴方様が 冬 おひさしぶりです

それは寒くなることではなく
それは雪が降ることでもなく
それは君に会えることでも なく
Long time no see おひさしぶりです

Every time no see Every time
no see はじめまして
いつかお越しになると信じていました 羽を縮籠めて
貴方様が 冬 はじめまして

これは去年の冬様ではなくて
これは一昨年の冬様でもなくて
これは君に会えることなのですから

Every time no see はじめまして

冬が 始まります

**good winter,
at winter**

冬がやってきたから

森の風に誘われて

木陰の踏むワルツを

ほのかに飾ってみせようか

森も林も木も

嵐も風も 君の白い息も

冬の舞台で ワルツを踊る

昔から翳っていた木の下に

冷たい白が降り積もっても

陰はその上に乗りかかって

それでも白くなった土台を

冬がやってきたから

僕の唄に導かれて

暖房をつけたクラシックを

また冬に流そうか

僕も僕も僕も

詩も唄も 君への恋も

冬の舞台で クラシックを奏でる

昔から色々と燃やしてきた暖炉に

冷たい水を注ぎ零したら

炎は弱まり寒くなり

それでも冬の家の中を

冬がやってきたから

snowman made of flowers

架空の雪の話

どうせ降りはないだろうけど
振ってくれるのなら
恋の成就と共に
雪だるまを作りたい

あんなことが起こるなんて
雪でも降るかもしれない
それでいいから　どうか　僕に

架空の雪の話

振ったとしてもここのは
雪だるまができるほどの量じゃなくて
だったら足りない雪の分
なにかで補えばいいのかも

そう思った途端に
雪の代わりと言わんばかりの
それでいいから　どうか　僕に

架空の雪の話

花でできた雪だるまは
溶けることなく　微笑んでいて

僕にも君にも 微笑んでいて
だけど

そう思えたときには

もう遅くて僕は

たくさんの花を犠牲にしたことに

架空の花の話

u r e
| s i

憂^{うれ}しいな

触れた手は冷たくて

温めようにも 僕も冷たくて

いつの日か 月に行こう

一粒というには大きすぎる星を

照らすように 照らされるように

冷たい体を 光で包んで

憂^{うれ}しいな

空が違っても 月が偽物でも

会いに行くにも 音沙汰なくて

いつの日か 冷たくなるから

みんなそのときは

月に照らされた星になれ

なにを女々しく憂^{よろこ}んでるの

どうせこうなんだってことは分かっていたし

それでも月が見えてしまうから

連絡が途絶えて2週間経ったけど

それでも僕は

いつの日か

僕はそう いつの日か

e m i t t e r

あのころよりも

大きく離れているような気がするの
は
実際に遠く離れているから

実際に会って話すのではなくて

最近の機器で離すんだから

話せない 離れたくないのに

「また会おう」って言ったのは僕のほうで

君は？ あのときの君は

どうしても分からなくて

もう何ヶ月も前のことになっていて

もう何ヶ月も会っていないことに今更気付いて

よく今まで耐えてこれたねって

自分を慰めようにも

いつのまにか責め立てていて

なんで離れているの

なんで話せないの

どうせ僕なんか あのころからずっと

「また会おう」っていうのは
もう

自分のことが大っ嫌い

そんな中でも君のこと好きになれた
それだけ？ それだけだった？

いやだ話せない 離れたくない

たとえば

P. S

もうどうやったって

唄えないぐらいボロボロになってしまえば

全世界の楽器を集めても

どうせどうせもうどうせ

唄ったって届かないのなら

もうなにもかも投げ出して

ボロボロになった服のまま

全て削除してしまえばいいんだ

切り裂いて踏み潰して

もうどうやったって

唄えないくらいボロボロになってしまえば

全世界の 楽 器を集めても

どう せどうせも うどうせ

唄ったっ て届かないのなら

も うな にもかも投 げ出して

ボ ロ ボ ロ にな っ た 服 の ま ま

君のこと忘れればいいんだ

Receive

送信して受信して

その程度の応酬が

もう途絶えてしまう

その程度だから

その程度だから

なにを間違えたのか分からない

ときに取り乱して

ときに気を取り直して

こんなとき僕は

なにをすればいいのだろう

もう一度送信する？

もっと待つ？

もう やめる？

どうして

今更になって僕は僕たちは

会っていないなくても嫌いになったりするのかい

会っていないから好きになれないじゃないか

送信して受信して

受信して送信して

そうであるはずなのに

なにがおかしいのか分からない

なにをしたらいいのか分からない

h f r u

詠うんじゃないくて唄うんだ

毎日続けるところやってズレが生じて

草稿なんだったらそれでいいけど

これで完成品なのだから

でもそれよりも

毎日うたいつづけることが大事で

それを修正したりすることは

その日のことではなくなつて

h f r t が h f r u にズレてしまつても

それでも僕はうたいつづける

そうやって前は

想っていたのに

詠つても唄つても悲しいんだ

そこに君は全くないなくて

ただの僕の唄だから

聴いてくれる人なんていない

振れ振れたズレだから

RE::games

思い出して

思い出して

手を合わせて

目を閉じて

リズムを聴いて

そして観て

もうヤダ もうヤダ

思い出して思い出して

手を合わせてそして開いて

目を閉じて聴こえなくて

リズムなんて知らない

知っても知らない

指を切り落としてしまえば

少しくらいは気にしてくれるかな

でもそんなことするつもりもなくて

ああ もういつまでも

待っているわけにはいかないのに

夜行バスの予約は

もう済んでしまったのに

君に会わなくても 僕は

僕はそっちに行くのだよ
でもそれってなんのために
本末転倒 リズムはどこへ

冬は深まっていくんだよ

t i l l

人生なんていらないんだ

取り上げるのなら持つていってもいいよ
ただ捨てるのも面倒臭くて

この粗大ゴミにあぐねてる

どうせ生きてても

良いことと一緒に悪いことが来るんだし

良いことの内に君がいるなら

少しは華やかになるかもしれないけど
どうせ

人生なんていらないんだ

ただ 捨てられなくて困ってるだけ

誰か持つていつてくれるんなら

喜んでタダであげるよ

その代わり “僕” を渡したりはしないけどね

この人生の中で

唯一ずっと一緒にいるのが“僕”で

人生は捨ててもいいけど

“僕”とはずっと一緒にいたいんだ

だからもし誰かに人生をあげられるのなら

それは“僕”のいない 空っぽの人生

そんなもの欲しい人いるわけないから

結局 今日もこれにあぐねて

仕方ないから唄ってるけど

音楽がつまらないんじゃないじゃなくて
聴いてる僕がつまらないから
音楽がつまらないんじゃないじゃなくて
聴いてる僕がつまらないから
また眠気に襲われる

耳を塞いでもここからは
イヤホンを塞ぐことはできなくて
むしろ音が大きくなって

消えちゃえ
そう呟く声も掻き消されて
音楽に飲み込まれている僕がいて
独りで閉じこもる僕がいた

音楽がやさしいんじゃないじゃなくて
聴いてる僕がやさしくないから
音楽がやさしいんじゃないじゃなくて
聴いてる僕がやさしくないから
また涙を堪えるんだ

堪えて堪えて涙を流さない
そうしている間に
泣き方を忘れてしまっていて

泣きたい

そう叫ぶ想いが音楽を掻き消しても
音楽は流れ続けるのだから
どうしても涙は流れなくて

a s t

I j u s t c a l l i n g r a d i c a l .

飛んでもっと社会を超えて

山超え海超え 全てを超えて

越えることなく超えるという

そのときの気持ちを超える

そのときの想いを超える

あのころの君を超える

あの僕を超える

根源から根本から根底から

源も本も底も超えるから

意味不明だって超えるから

あいじゃすところいんぐらでいかる

飛んで飛んで飛んで

飛ぶことさえも超えて

超えて超えて超えて

超えることまでもを超えて

もうなにをしたらいいのか分からない

そういう気持ちも想いも唄も超えて

そしたらなにもなくなった

でもないことも超えてしまおう

b a n

本筋から離れよう

君への恋ではなくて

一からやり直そう

やり直すってなにを

それは僕も分からない

でも本筋から離れよう

吸血鬼は死んだのだから

君への恋ではなくて

ある青年の恋心

昔々 あるいは今々あるところに

“君”に恋する「僕」がいました

“君”と「僕」はとても

とても離れたところに住んでいて

「僕」はそれでも “君”に会おうと一生懸命に

唄って過ごしていたそうです

ある日「僕」は “君”の住むところへ行くことを決めました

そのことを“君”にメールで伝えると “君”は喜んでいました

それから計画を立てて 具体的な日にちを決めた「僕」は

“君”にそれを伝えます

でも “君”はそれから音沙汰無しで

それでも「僕」は“君”の場所へと向かったそうです

それだけだそうです

I i you

“ こういうのはやっぱり 言葉にしたほうがよさそうで
でもこの前言った通り

「I love you」とはつまり君に会って時間が経ってから
言いたくて

だったらどうしようというほどのことでも なくて
その打開策で「I need you」を思いついたから”

何ヶ月か前に そう唄ったけど
そういうわけにもいなくなつて

I love you I rob you

文面だったらすらすら言える
口ごもることがないからね

ただ それを君に送るのは
ただ それを僕が送るのは
????? “ どうしよう” の “し” に力を入れて

だから英語も韓国語も まだ唄ってないけど「我愛？」でもなくて
日本語の「愛してる」も違う
一番短く 口ごもらないように
はつきりとした文面で 恥ずかしがったとしても気付かれないよ
うな

「好き」を君に送ろう

練ることもないのに文章を練って練って練って

どんなに考えても「好き」よりも簡潔で完結な告白文句が
思いつかないのだけど

早く早くって心が急かす

だめだだめだよって心がとめる

心と心がせめぎあい

僕がどこにいるのか

僕もなんだか知らぬのだ

練って練って練ってもまだ

「好き」にしかならなくて それ以上の文章を書けなくて
なんだ僕ってこの程度なんだって

でも「好き」って いったい何

早く言いなよ 心が急かす

言っちゃダメ 心がとめる

心と心が両極端

でも僕が真ん中にいるというわけではなくて
端っこに隅っこにいるわけでもなくて

僕はどこにいるの

e m o t i o n - 2

“ 衝動的になれたらいいのに ”

こういうときに「好き」って言葉を
僕が君に e m o t i o n に身を任せて
タイミングなんて分からない
でもたぶん それは今
e m o t i o n がそう言ってる

“ 衝動的になれたらいいのに ”

そうやって「好き」を抱きかかえているだけでは
ダメダメダメだダメなんだ
なれたらいいのにだなんて
そんな生半可なことじゃなくて
これはもう e m o t i o n に任せるしかないのかも

“ 衝動的にならなくちゃ ”

置いておいた e m o t i o n は
もう錆びれて使い物にならない
だったら手に入れないと
冬はまだまだ 時間があるはず

夜行バスまでも まだまだ時間がある
はずなのだから
純白も漆黒もないのに

一人で独りで

僕ひとりで e m o t i o n を手に入れに行く

そして言うんだ 君に

k i b o u | n o | n e i r o — e s p e r a n z a || 0

どこにあるのか e m o t i o n

サタンを探していたときは違つて

希望の音色 それは e s p e r a n z a

怒ってもいい

笑ってもいい

でも泣いちゃだめ

そんな僕を包んでくる

e s p e r a n z a の道筋を辿つて

寂しくたつていい

悲しくたつていい

でも喜んじやだめ e m o t i o n が遠ざかっちゃう

希望を奏でも

希望の音色はしないんだよ

それは e s p e r a n z a

さあ e m o t i o n

僕に姿を見せとくれ

嬉しくつて泣きそうになつても

絶対に泣いちゃだめだし

それ以前に 喜ばないで

そんなこと言われても

引いて残るのは なにもない
0^{ゼロ}

e s p e r a n z a は e m o t i o n ではないんだ

O S i

話は終わる

終わらない話は 実を言うとな

それに早く気付いておくべきだったし

ずっと気付かないままであつたほうがよかった

そんなことを言ってももう遅くて

なにもかも遅くて

ひとつだけ確かなことは e m o t i o n なんてどこにもなか

つたってこと

ここ僕にも君にも皆にもなかった

告白をしたら 物語が進展するのは必然で

物語が進むっていうのは

つまり

終わりに近づいているということだったのを

僕は気付いていなかった

いいやいいやうん

本当はきつと気付いていたんだ

でも僕はそれから

ずっと目を逸らして

耳を塞ぐように唄っていたんだ

そう僕が気付いたのは

昨日 こんなことがあつたから――

y e s t e r d a y (2 / 2)

僕の クラスメイトとクラスメイトが 付き合いだした

「ちよっと買い物付き合ってよ」の「付き合い」ではなくて
だから

恋人同士になった

クリスマスが近い

女子のほうからの告白だった

ふたりは付き合った

ふたりの物語を

僕は詳しく知らない

だけどふたりは恋人になった

笑顔が似合ってた

帰り道

告白は帰り道から

どこからの帰りかといえば

それは 僕とクラスメイトとクラスメイトとクラスメイトとクラ
スメイトの

パーティー っていうのかな

パーティーっていうんだろうな

その帰り道だったんだ

ふたりは付き合った

なぜだか僕も

うれしかった

a young indirect of confession

考えた挙句に考えて

打ち拉ぐのなら今のうち だけど君は

やっと連絡をくれたから

なんだ 嫌われたわけではないじゃないかと

でも幼くなった告白は

まだ胸にあるから

考えたのは 「好きだ」

「だ」を付けることにした

それは「駄」でも「墮」でも「蛇」でもなく

ただの「だ」であるだけで

でも君から連絡があったのだから

会えるのだから

今 告白したりはしないんだ

冬はどんどん深まっていくのに

考えた挙句に時間切れで

でもそのタイムアップは

クイズ番組でいうところの 答えが聞ける時間で

悩むのも終わり

きつとそういう「だ」なんだ

冬はまだまだ深まっていくから

why

計画を立てないと

あそこに行つて あれに行つて どこに行つて そこに行く
君とどこへ行こう

どこで会おう

それはどこ行くか決めてから
じゃあどこ行こう

僕が決めるの？

とても嬉しくて
とても楽しくて

なぜ

そう考える暇もなかった
きっとこれが恋

計画を立てないと

あそこに行つて あれにも行つて どっか行つても そこに行こう
君と行く

どこへ行こうか

なぜ

計画を立てよう

どこに行くか決めるんだ

僕はどこに行きたいの

ああ 決められない

なぜ

それが分かれば

それに気付けば

きつとすぐに決められるだろうに

y e s t e r d a y (1 / 2)

みんなで集めた
半強制的に集めた

お金

一人につき1500円

それを使って

買っておいた ケーキとプレゼントを

その日は 友達うまれたひの誕生日

いやだけど0歳というわけではなくて

もう17 言ってしまうばそうなるのかも

工場の演目は 空を見上げ

天道の煙黙は 地を見下げる

……なにを言ってるんだろうね

「ハッピーパースデー」

ケーキを囲んで 蝋燭の火を消し

いや火を吹き消したのは僕ではなくて

……言うまでもなかったね

友達の顔を 蝋燭が照らして そして消える

その友達のことが好きな クラスメイトは

でも一緒に楽しんでいて

……言うまでもなかったけど

きらきらしているかもしれない瞳は 僕には見えなかったんだ

楽しかったから

嬉しかったから？

罪をなすりつけて？

なんの話？

ねえ

工場の煙はえんもく

なにを作るにしても空に浮かび

暮れていくオレンジの雲を

白く

白く覆っていった

……なにを言っているんだろうね

single overhead

なんで君でないといけないの
そんな質問が来ても

僕はうまく答える自信がない
だってただ「好きだ」なだけなのに
どうやって説明すればいいの

だから君にこだわるのはヤメタ
……だとも言えないのは
やっぱり君でないといけないから

自分のために
誰かのために
システムの負荷を作って
どうか僕と

メールは順調に動いてて
なるほど

あるとき嘆いていたのが杞憂だったように
君は楽しく答えてくれる

だけど

なんで君でないといけないの
そうやって自問しても
自答できない毎日で

会えるのはほぼ確実
なら 答えるべきなんじゃないかな

pre

不安で泣いてしまっても

大丈夫と言う人がいなくても

手から離れていった赤い風船が帰ってこないように

僕は 前――

サンタさんのように

飽きられても期待されるような そしてきつとやってくるような

トナカイのソリを滑らせて

でも事故なんて起きるはずのない夜を

クリスマスに警察がサボるのは

間違ってサンタさんを捕まえたりしないため

空に浮かんでいった風船が帰ってこないのは
間違いを子供に教えるため

離れてしまったら

もう会えないから

でも とても大切なことには

僕も君も

空気より重かったってこと

たとえば元々はサンタさんだった人のように

**n
o**

付き合いだした同級生
昨日は楽しかったねと
二人して満面の笑みを
降り積もる雪を眺めて

今日くらいサボればと
僕は二人に提案するも
学校は行かないとって
意外にもしつかり答え

なんでまだ学校あるの
そう不平を洩らしても
僕は別に予定がなくて
今日もこれを唄うけど

センチメンタルの冬は
でも本当は今日でなく
君に会ったその日から
どうしようもない毎日

ありふれた告白文句は
だからこそ愛おしくて
とても言えたものでは
ないのかもしれぬけど

冬に咲く花は綺麗だと

僕はいつか言っただけど
綺麗なものを花という
だから当然なのかもね

知らないけど嘘だけど
もう今は冬休みだけど
学校に行かないとダメ
そんな生活があるなら

さあ今日はクリスマス
僕は独りで歩道を歩き
面白いものを求め歩き
寂しくも笑うんだろう

f o r g i v i n g b e i n g f o r b i d d e n

変わらない月は

もう僕たちの指標ではなく

さてクリスマスが終わったけど

まだ冬は続くのだから

意外と知られていないことだけど
許すことが禁じられているのなら
禁じられることは許されるんだよ

もはや月はただの月で
時間が止まっても月で
面白くもなんともない
そんな月はいらないよ

月の髑髏されしうづが空に浮かんだら
もうすぐ会える その合図
……だなんて そんな話もないのだし

月は結局ただの月
空を繋げているんじゃないくて
空に繋がせてもらっているもの

意外と知られていないことだけど
許すことが禁じられているのなら
禁じられることは許されるんだよ

もう月なんていないよ

メールで機械で約束あえるひで

僕と君は 繋がったのだから

もう月なんていないよ

Lyric

即興の唄は

すぐに忘れ去られていくけど

もしそれを ノートここに記していたのなら
それこそが唄ならば

そうやって唄ってきた

もうすぐ三ヶ月が経つ
もしこの ノートここを

何年か先の僕が見たら

どんなことを想うんだろう

どんなことを思うんだろう

そのための ノートここではないけれど

あ そうだ もし

何年か先の君が見たら

その君が ノート未来の僕とここを見ていたら
どんなことを想い

どんなことを思い出してくれるんだろう

……そんなこと分からないから

今日も僕は唄をうたうよ

即興でアドリブで

話が破綻していても大丈夫

それでもここは ノートLYC
きつといつまでもLYC

d t g t g e a v g t n h s x x v x z f g x z

葉は

“ d t g t g e a v g t n h s x x v x z f g x z ” っていう言

並びそのものに意味がなくても

字それぞれに意味があったり

いやでもホントは並びに意味があったりして

なにが言いたいのかというと

この想いは

これまでだって

これからだって

意味不明だってこと

“ 人 ” は韓国語で??^{サラン}という

“ 愛 ” は韓国語で??^{サラン}という

韓国語でははっきりとした発音の違いがあるけど
言語の壁をよじ登ってみれば ほら

ところで??もサランと読むのだけど

こんな言葉 辞書には載ってなくて

つまりだから

サランは意味不明なんだよ

そういうことだから

“ d t g t g e a v g t n h s x x v x z f g x z ” っていう言

葉の正体は

実は人のことで 実は愛のことで
みんなみんな 意味不明でも伝わっていくものなんだ

だからそう

君の人間味溢れる愛がサランが言葉が

意味不明だからもうホントに意味不明だから

これは単純 論旨明快

そもそも証明しようとするのが間違いなんだ

つまりだから僕が言いたいのは

僕がどうにかして説明したかったのは

これだけなんだ

君が好き

k i o k u

あのサイトのことは 10月くらいに知った

どうもNコードというものや

予約投稿というものがあって

僕は最近 12月

今まで書いてきた詩を

そのサイトに載せてみたんだ

こうやって詩を纏めるのは

思ったよりも面白くて

もしかしたらこの^{ノート}こも

いつしか投稿するかもね

……まあ ないとは思うけど

今日 2010年12月29日

別に雪は降っていないくて

なんというか

もうすぐ正月だなーとも思わない

ただの一日

このサイトは 結構いいところ

Nコードは 作品を探すのにあまりアテにならないようだけど
会員登録してみて ホントに良かったって思ってる

閑話休題

2

君に会うのは 来年の1月3日

計画もしっかり決まって

ずっと待ち焦がれていた

君との再会劇

そして ずっと練習してきた

君への告白劇

どんな答えが返ってきても

僕はきつと

言えたってこと

伝えられたんだってこと

喜ぶと思う

泣いて泣いて

乾いてしまった頬を

濡らしてくれるんだと思う

きつときつと僕は

君の手をとって

遠く離れたその地の観光を

君と ふたりで

冬はもつと寒くなって

冬の花は

もっと綺麗になるんだろう

あと2日で来年

僕と君 1+1で

冬に咲く花は

雪だるまになって笑いかけてくれる

久々に会って もしかしたらちぐはぐ

冬の花が

月よりも遠く

繋がってくれるから

綺麗に降り積もる花を

g r a t i t u d e (前書き)

今日は2011年1月7日

せっかくの毎日の唄も 2010年最後に書けなくて

やっぱ僕ってこういうヤツなんだよ

でもずる賢く

ノートここには12月31日ってことにしちゃおうと

以上、前書き！

g r a t i t u d e

君はきつと笑ってくれたね

今までの練習は ホントに無駄だった

一発本番 練習とは訳が違う

でも君は きつと笑ってくれたね

だから言っただよ

空の月を

どうにかして届かない場所へ送るために

神様はきつと恋をしたんだと思う

月を触っちゃいけないんだってこと

そうでもないかと 気付けないだろうから

ねえ ありがとう

僕の口から 感謝を伝えることはできなかったけど

ねえ ありがとう

僕の申し出を 断ってくれたこと

困ったような顔をして でも笑ってくれて

きつと忘れたりはしないよ

だけでもきつぱり諦めるよ

ねえ ありがとう

感謝を唄おう

これがきつと 最後の唄

ありきたりな唄だけど

僕は気付いたよ

ありきたりでも それは僕だけの人生

君だけの人生に 僕がいられて嬉しいよ

ねえ神様 ありがとう

生まれる前から決まっていたのか
生まれた後になって決まったのか

そんなことは知らないけど

この“僕”をくれて

本当にありがとう

ねえサタン ありがとう

それが墮落の象徴でも

僕にはそんなこと分からないから

それよりもまず

墮落も“僕”のうちだから

本当にありがとう

ねえお月様 ありがとう

僕と君を繋げてくれて

空でいつも輝いていて

ずっと見守ってくれて

それを“僕”はいらないとか言って

本当にありがとう

ねえ漆黒と純白 ありがとう

もういないけど

もうずっといないけど

それでも僕だけの人生に

“僕”に取り込まれてくれて

本当にありがとう

ねえ“僕” ありがとう

そして これからもよろしく

ねえ ありがとう

ねえ ありがとう

g r a t i t u d e (後書き)

“ L Y C t P . S ± g ” i n 僕 i s e n d .
B u t 僕 i s n o t e n d . L i k e m o n t h .
B e c a u s e o f . .

【第2編・わ】

プリクラ

この前撮ったプリクラは

ティッシュに丸めてポイしたよ

わたしの顔が醜すぎて

わたしの顔が気持ち悪すぎて

一瞬でも写りがいいと思ってしまったわたしが

捨ててやりたいくらい馬鹿らしくて

友達がどれだけ可愛くラクガキしても

ティッシュに描く絵は破けやすいから 壊れやすいから

気持ち悪くて ポイしたよ

ごめんごめんね 200円

二回撮ったから 400円

サイアクのわたし 意味もなく捨てられた400円

全部わたしが悪いんだ

全部わたしのせいなんだ

この前撮ったプリクラは

ティッシュに丸めてポイしたよ

きつと今頃燃えるゴミ

それにわたしはゴミの元

そんなわたしが書く訳を

誰でもいいから聞いて欲しくて

だからどうか

このクソブタめに

お付き合いください

文字

わたしは文字を書いている

それは小説なのかもしれないし

それは詩なのかもしれない

だけどわたしにとって

それらはあまりに気持ち悪くて

小説と呼ぶにも詩と呼ぶにも

億劫で 気違いで

ただの文字の集まりだ

そう抑えている

サイアクの文章

サイアクの物語

サイアクの情景

いつまでたっても わたしの文字は

気持ち悪くて 気持ち悪くて 気持ち悪くて 気持ち悪くて 気

持ち悪い

それでもわたしは書き続ける

それが何故か

なんとなくではあるけど

答えはもうとつくに

潰れたまま残っている

駄作

わたしが書けるのは
文字を組み合わせてどうにか書けるのは
いくら頑張っても 駄作まで

それでも 優しい誰かは
それを褒めてくれる
その愛情が首を絞める
誰かにとっては愛情でもなんでもなくて
ただの意見なのは分かってるのに

駄作を書いて駄作を書いて駄作を書いて駄作を書いて
誰かが読んで誰かが読んで誰かが読んで誰かが読んで
作者がいたら読者がいるっていうけど
その誰かっていうのが
実は作者と同一人物であったりするのだから

だから
だから
だから……

読者

わたしは読者を意識せずに
駄作駄作と言い連ねて
気持ち悪い文字を書いている

自分の殻に籠っているのか
自分が空^{から}になっているのか
どうせわたしは気持ち悪い

気持ち悪いものを撒き散らすと
案外みんなは知らんフリ
迷惑そうな顔もせずに
ただ通り過ぎていく
それが面白くて

今頃燃え尽きたプリクラは
その辺の海でも埋めているんだろう
それがつまらなくて

わたしは読者を意識せずに
空っぽになった殻を閉じながら
気持ち悪い文字を撒き散らす
気持ち悪いわたしを曝け出す

読者がいたならきつと
とても迷惑そうに毒づきながら
それでも平然とした顔で

わたしを騙してくれるんだ
それが面白くて

わたしが書き続けるのは

結局はただの依存症

自分のことがキライ 大嫌い 気持ち悪い
だけど

面白いことを見つけた

文字を組み合わせるだけで

気持ち悪い文字で

狂気に満ちた楽しさを見つけられた
たぶんそれが嬉しくて

結局はただの依存症

気持ち悪いわたし

わたしはわたし

わたしは気持ち悪い

だからわたしは書いている

わたしはわたしが大嫌い

だからわたしは書いている

結局はただの依存症

ずっとわたしを嫌ってただけ

本当はどうせ 慰めて欲しいだけなんですよって
そうやってわたしを虐めていたただけ

わたしが書き続けるのは

ただ やめられなくなったから

結局はただの依存症

結局はただの依存症

もう永遠に戻れない

わたしはわたしが大嫌い

醜いわたしが大嫌い

だから書く

小説らしきもの

詩のようなもの

空っぽの殻を開け放つても

わたしが書き続けるのは

ただ やめられなくなったから

結局はただの依存症

気持ち悪いただの依存症

つづく！

終わらない話はクライじゃないけど
わたしはそういうの 書きたくない
そういうと我儘になってしまうけど
終わりがあるから続くことができて
プリクラが捨てられてしまったのは
どうせ全ての物体は尽きていくから

終わらない話を終わらせるには
作者を殺しても不可能で

わたしには思いもよらない方法でないと
どうしても終わらない

だけどわたしは書き続けるのだから
きつとわたしには終わりがあって
わたしが嫌いなわたしにとつて
わたしの終わりは待ち遠しい

そんな夢や希望なんだから
気持ち悪い文字をとつて

小説なのか詩なのかは
ずつと言えないまま

きつと創作してる
胸を張って言う

そんな瞬間が
またいつか

来るから
きつと

うん
ね

だからそれまで
わたしはつづく！

つづく！(後書き)

【第3編・る】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3540p/>

いつかの林檎の木の下で

2012年1月13日21時07分発行